国立国語研究所学術情報リポジトリ

接続助詞用例集

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所話しことば研究室 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002391

接続助詞　用例集

1. 『観弾『列情仏心』』の　会話文

目　次

・1 接続助詞1つの用例

		ページ			
1	上からは	1	16	どころか	21
2	が	1	17	どころで	21
3	から	4	18	とすれば	21
4	くせに	7	19	ながら	21
5	けれど・けど	7	20	なら	22
6	し	8	21	ので・んで	23
7	だけに	8	22	ば	24
8	たって	9	23	ひにやァ	24
9	たら	9	24	もんですから	24
10	ちァ・ちゃ	10	25	「ば」の変化形	
11	て・って	12		[ーやァ]	24
12	で	16		[ーりやァ・りゃ]	25
13	ても・っても	17		[ーれァ]	25
14	でも	18		[ーきやァ・きァ]	26
15	と	19	26	連用中止形	26

・2 接続助詞2つ以上の用例

		ページ			ページ
27	が・□	27	54	たら・□・□	40
28	から・□	28	55	(っ)て・□・□	41
29	け(れ)ど・□	29	56	で・□・□	42
30	し・□	〃	57	ても・□・□	〃
31	たって・□	〃	58	と・□・□	〃
32	たら・□	30	59	ながら・□・□	43
33	ちァ・□	31	60	なら・□・□	〃
34	(っ)て・□	〃	61	ば・□・□	〃
35	で・□	33	62	「ば」の変化形	
36	ても・□	〃		[ーやァ]・□・□	〃
37	でも・□	34		[ーれァ]・□・□	44
38	と・□	〃		▨・□・□	〃
39	なら・□	35	63	が・□・□・□	〃
40	なり・□	〃		から・□・□・□	45
41	んで・□	36		くせに・□・□・□	〃
42	のに・□	〃		けれど・□・□・□	46
43	ば・□	〃		し・□・□・□	〃
44	「ば」の変化形			たって・□・□・□	〃
	[ーやァ]・□	〃		ちァ・□・□・□	〃
	[ーりやァ]・□	37		(っ)て(で)・□・□・□	47
	[ーれァ]・□	〃		ても・□・□・□	48
45	もの・□	〃		と・□・□・□	49
46	▨・□	38		なら・□・□・□	〃
47	上に・□・□	〃		に・□・□・□	〃
48	が・□・□	〃		ば・□・□・□	50
49	から・□・□	〃	64	「ば」の変化形	
50	けれど・□・□	39		[ーれァ]・□・□・□	〃
51	し・□・□	〃			
52	ずに・□・□	40			
53	たって・□・□	〃			

国立国語研究所
話しことば研究室

21552

1967－3

1.「多情仏心」　1 接続助詞 1つの用例

分類	見出シ語	用例	テキストページ	ソレ接ム文節の形	「現代語の助詞・助動詞」	文末トノ時応	備考
1.	上からは	○掛合落語とみられに上からは，窮屈な思ひをするだけ無駄だ。	92	みられ・に・～	無		一般的ではない。「～うえは」か「～からは」がふつう。
2.	が	○御無沙汰ばかり申しあげて居りますが，皆様別にお変りいらっしゃいませんか。	304	居り・ます・～	有．［P19～］	~~○過半数が「だ」体で終止しているようである。~~	○前置語の品詞
		○有難うございますが，お食事のおすみになった時分にお伺ひいたしませう。	329	ございます・～			助動詞（終止形）── 40
		○そのお話もゆっくり伺ひますが，同宿のよしみだけでも，よんだりよばれたりするくらゐは普通でさァね。	329	伺ひ・ます・～			形容動詞（終止形）── 4
		○すみませんが，先生かけてくださいませんか。	32	すみ・ません・～			形容詞（終止形）── 3
		○あたしのやうな者には見当もつきませんが，然し，まだ世間と云ふものからは，当分道徳はすたりませんよ。	252	つき・ません・～			動詞（終止形）── 1
		○面白いと云ったァすみませんが，兎に角誠に美い，結構なことだと思ってますよ。	259	すみ・ません・～			○「すみませんが」── イディオム的である。
		○いつかまたお話する時があるかも知れませんが，今ね，大へん好きな女が出来てるんですよ。	284	知れ・ません・～			○前置語の品詞は総数48のうち40までが助動詞である。
		○叔父さんに訊いて来ようなってところだが，『新演芸』かなんかで読んどいたな。	45	ところ・だ・～			また，その40の助動詞のうち，15が「だ」である。「です」・「ます」が比較的少いのは「が」という接続助詞が割合くだけた云い方だからであろうか。
		○話せる，と云ったァ失礼だが――，あたしも同感ですね，赤はよござんすよ。	88	失礼・だ・～			
		○それもさうだが，――困ったなァ。	117	さう・だ・～			
		○お気の毒だが，どうもまだお前さんのやり口は青いよ。	158	お気の毒・だ・～			「です」・「ます」は「けれど」の類に接続されやすいのかもしれないが，「けれど」の項の用例が少くはっきりわからない。
		○失礼だが，雇人ぢァ出来ねえ芸当だよ。	169	失礼・だ・～			
		○偶然と云ふよりほかないんだが，またいかにも相手がわるかったー！	195	ない・ん・だ・～			
		○そんなことはどうだっていいんだが，関係してから間もなく，あの女からあたしに金を貸せと云って来た。	280	い・ん・だ・～			

	○独逸の学者が云ひ出したんだが、まア、さう云ふことになってるんだ。	281	出し・たんだ～			
	○鈴江だが、あたしとしては、あゝ云ふ、娼婦型の女には結局深はまり出来ないってのは、初めッから解ってたことなんだ。	283	鈴江・だ～			
	○一応訊いときたいんだが、君は今でも鈴江が好きなのかい。	283	訊いときたいんだ～			
	○これは死んだ親父の真似なんだが、――申し出した賠償の半分だけは進呈しようって、百五十円づゝ、慣か二度持ってかれたよ。	284	真似なんだ～			
	○人間が人間を試すなんて、もとより間違った話だが、おかげでまア君の馬鹿さカロ減も、根こそぎ解ったよ。	287	話・だ～			
	○先刻っから頻りに考へてるんだが、どうしても名前が思ひ出せないんだ。	306	考へてるんだ～			
	○お前さん、失敬だが、なんてったっけね。	306	失敬・だ～			
	○その真心からの御相談とやら云ふやつだが、そんなことで一二時間も暇をとられちアやりも切れんよ。	325	やつ・だ～			
	○お言葉の中ですがね、まだ顔も見ないさきから、いかに大先生でも、それアさうは云はせませんよ。	214	中・です～			
	○自慢のやうですが、あたしは、これでも行ひたゞしく正直にやって来たつもりです。	252	やう・です～			
	○藤代信之と申すものですが、貴方は笹井さんぢゃいらっしゃいませんでせうか。	320	もの・です～			
	○こっではちょっと申し難べかねるのですが、今夜なり明朝なり、ちょっと一二時間お暇を割いて頂けませんでせうか。	321	かねるの・です～			
	○申しあげ憎いのですが、武井澄、あの人に関したお話です。	321	憎いの・です～			
	○大嫌ひな言葉で使ひたくないんですが、関係があると云ふんです。	323	ない・んです～			
	○お話なかばですが、さう云ふ具体的なことは、もう伺ふ必要はなさそうですな。	331	なかば・です～			

○お恥しい次第ですが、どこか一本も二本も足らないところのある、いい加減な気持だったのです。	333	次第・です・～
○お如才もあるまいが、右の趣を女将さんの方へもよろしくお取次ぎがひます。	80	ある・まい・～
○そんなことまでは知らねえが、なんでも金看板極印付の代物だってえ話だよ。	222	知ら・ねえ・～
○なんだか知らないが、とても頑強ですよ。	34	知ら・ない・～
○無礼講はどんなに無礼講でもかまはないが、患に負取捲せたい気持は十分にあるんだね。	76	かまは・ない・～
○そこまで云っちまっちゃ、みも蓋もないが、まァ～そんなことだ。	77	みも蓋も・ない・～
○会ったことはないが、どうもお前さんの旁へてるやうなもんぢゃなさうだね。	156	ことは・ない・～
○ちっとも無理ぢゃないが、あたしは何も、あなたに詫って貰はうと思って来たんぢゃない。	197	無理ぢゃ・ない・～
○どっちがいつの、どっちが悪いのと云へるもんぢゃないが、あの女の、あたしに詫さうとしてゐる気勢も可なり露骨には違ひなかった。	280	もんぢゃ・ない・～
○悪いことにや違ひないが、こっちぢゃ君と云ふ人間を千円で買った気なんだ。	287	違ひ・ない・～
○肝心な話がどっかに飛んでってゐましたが、紀尾井町さん、どうでせう、出て来てくださるでせうか。	28	ゐ・ました・～
○つい申しおくれましたが、いかがでいらっしゃいます。	55	申しおくれ・ました・～
○そのべり名刺を一枚いただきましたが、いいでせうね？	172	いただき・ました・～
○初めから嫌ひと云ふほどぢゃなかったが、一体あたしは、あゝ云ふ、質の女はさう好きぢゃない。	279	なかっ・た・～
○もうちっとはしっかりした男かと思ってゐたが、全く馬鹿だね。	287	ゐ・た・～

		○意思はあっぴが、方法がつかなかっぴでは、申開きは立たない道理です。	333	あっ・ぴ・～			
		○二人ともまねっぴといふが、そのまねり方の度合が問題だね。	112	いふ・～			
		○大まかもいっが、隨分馬鹿げきっぴこともあらァね。	221	いっ・～			
		○東條の手附けも可笑しいが、兎に角なんかもっと甘いもんを食はせろよ。	219	可笑しい・～			
3	から	○俺なんぞなほ馬太目だよ。細男の信用、ほとんど零だからね。	32	零・だ・～	有［P35～］	○文末の形式の特徴	○前置語の品詞
		○まァ～、そんなこと云はずにやってみ給へ、きっと大丈夫だから。	32	大丈夫・だ・～		◻依頼～［テクダサイ］	助動詞（終止形）―― 31
		○ちっとやそっとは盆暮のくばりものをする先だってあるんだから、	56	あるん・だ・～		［テクレ］	動詞（終止形）―― 11
		さう普通の月のやうな具合にやァいかないよ。				［テ］	形容詞（終止形）―― 8
		○まだお目にかっぴことがないんだから、いきなりで失礼かしら。	59	ない・だ・～		その他。	形容動詞（終止形）―― 3
		○生意気明日顔等と来てるんだから、可愛っなっちゃうなァ。	83	来てる・だ・～		◻命令・勧告～［ロヨ］	
		○おんなじこったから、変ってくださいよ。	85	おんなじこっ・だ・～		［ナサイ］	○［いいから］、［後生だから］、
		○兎に角重役さんの息子だから、これがまに大しに扱ひで、武田	114	息子・だ・～		［テゴランナサイ］	［木曽はないから］――イディオム的。
		家の二階の一間にねかされる。				その他。	
		○不当の世の中だから、大いに不当に出させようと云ってるんだぜ。	124	世の中・だ・～		◻質問～［カシラ］	○前置語の品詞は、総数
		○忽ちあっ云ふ景色になっちまるんだから驚きますよ。	133	なっちまるん・だ・～		［カッタロウ？］	53のうち、31が助動詞である。
		○お前さんは嘘つきだから駄目だね。	151	嘘つき・だ・～		◻さそいかけ～［ナイカ］	
		○そっちに荷をおろしちゃったんだから、めしゃもう高見の見物ぢゃ。	157	おろしちゃった・だ・～		［シマショウネ］	○「から」で接続されている文章
		○お喋りだから、初めて逢った晩から、どん～喋って了ったね。	197	お喋り・だ・～		◻希求～［ナイカナ］	の独立性が弱いのではないか。
		○あなたは大先輩なんだから、へんなまねはしっこないにしませうね。	213	なん・だ・～		◻原因・理由。	
		○やっと二十歳かそこらの小僧っ子に、その場で小切手を書いて	222	渡しっ・てん・だ・～		◻その他。	

		渡しにってんだから、まったく呆れもされねえや。					
		○ 後生だから、あいつの話だけは暮か忍してくださいな。	230	後生・だ・～			
		○ 面倒だからもうこっちにしとかう。	302	面倒・だ・～			
		○ たまさかの暇に、気保養に出かけて来てるんだからね、いつまでもぐづり～つまらん愚痴を聞かされるのはかなはんよ。	325	出かけて来てるんだ・ね			○「から」は、接続助詞の中でも頻度の高いものの部類である。
		○ 二三日前にも逢ったんだから、別に用で来たわけぢゃなかったらう？	350	逢ったんだ・～			
		○ ほかにまだ一人も極ってない、ってあふやうなわけですから、ほんとに何分とも宜敷お願ひ申します。	129	わけ・です・～			
		○ 先にお宅へお送りした方が道順ですわ、どうせ自動車屋さんは、うちのすぐ近所なんですから----。	233	なん・です・～			
		○ 世間態だけのことでいいんですから、信用を失はないやうになさいな。	253	いいんです・～			
		○ 来てからまだあんまり間がございませんのですから、気のつきませんところは、どうぞ御遠慮なくさう仰有ってくださいまし。	310	ございませんのです・～			
		○ お断り申すのも却って失礼ですから、それでは、御遠慮なくお伺ひいたすことにいたしませう。	329	失礼・です・～			
		○ すぐ行きますから、奥へさう云っといてください。	82	行き・ます・～			
		○ よござんす。どつかに書いたっけかと思ひますから---。	155	思ひ・ます・～			
		○ お任せしますから、いかやうともよろしきやうにやってごらんなさいだ。	156	お任せします・～			
		○ あにしが送ってってあげますから、おはにもうお帰ッなさい。	169	あげ・ます・～			
		○ 俥をさう云ってあげますから、来っていらっしやい。	174	あげ・ます・～			
		○ あにし呼んで来てあげますから、矢っ張りお俥になさいな。	175	あげ・ます・～			

○二階が賑かになってますから，どうぞお上がんなってくださいまし。	201	なって・ます・～			
○よこざんす，今あたしがつれてきますから――。	201	つれてき・ます・～			
○お近づきのために，御一緒に食事をいたしたいと思いますから，どうぞ	328	思い・ます・～			
その御婚都合になってください。					
○こっちいおいでな，いい花が沢山あるところを見つけたから。	16	見つけ・た・～			
○またなんでせう，いつもの飲みすぎなんでせう，胃だとか腸だとか女中さんが	220	云ってました・～			
云ってましたから――。					
○なんの税でも構はないから，せめて一人あて百円づつもくれないかな。	123	構は・ない・～			
○お面を被って行かないとはいり憎いから，もう少しこで飲んでかうぢゃないか。	80	はいり憎い・～			
○いいから，早くお料理を持って来てください！	74	いい・～			
○いいよ，こっちはいいから早く電話に出たまへ。	127	いい・～			
○だから，どこでもいいから，俺の知らねえやうなところへつれてってくれよ。	167	いい・～			
○ま，いいから，あたしの云ふなりになってください！	181	いい・～			
○景気がいいから，おでんなンぞ食ひてがないんで暇ですよ。	205	いい・～			
○オイ いいから，もう一度腰かけろよ。	289	いい・～			
○三月号にはきっと書くから，ちっと前借させないか。	117	書く・～			
○二割の特載料を出すから，ちょっと百円かそこら貸して貰ってくれよ。	121	出す・～			
○俺が自動車で送ってやるからもうちょっと待たないか。	162	やる・～			
○俺が送ってってやるから，もうちっと寝てないか。	163	やる・～			
○一緒に行くからちょっと待ってろよ。	163	行く・～			
○ちゃ，あなたに帽子を買ってあげるから，あたしと一緒に銀座までいらっしゃい。	190	買ってあげる・～			

		○待ってくれ，ちょいと汚いものの始末をして行くから…。	183	して行く・～		
		○あがねえよ，俺ら貧乏人がお家のものなんだってえから…。	220	てえ・～		
		○いまとるから，ちょっと待ってね。	236	とる・～		
		○ちゃね，おれも正直に話すから，そのつもりで聞いてくれねえまい。	279	話す・～		
		○三百円にせとけから，おれは友達に金を貸すことは可厭だ。	284	とけ・～		
		○御当人，活動嫌ひと来てるから年に一遍見るか見ないだらう？	221	嫌ひ・～		○前置詞の品詞――(名詞)―1
		〈 4 例 削 除 〉				
4	くせに	○一体生意気だァね，女のくせに，	338	女・の・～	有［P41］	○倒置文と扱った。
5	けれど・けど	○女房子なんぞ，相手がソジン（素人）の場合ならどうだか知りませんけれど，云ひて一家の主人と云ふ方が重味があっていくらおでせうよ。	132	知り・ません・～	有．［P43～］	○前置詞の品詞 助動詞(終止形)―― 12
		○随分おごってれんだけど，馬太目ね…。	57	おごってれん・だ・～		
		○おれは基督教信者だけれど，仏様のなさる道楽にまで，とやかうと口出しをするほどの没分暖漢ぢゃないつもりです。	253	信者・だ・～		○「けれど」・「けれども」，「けど」・「けども」と，4つ用法があるが，会話においては「も」のつくのは一般的ではないようである。
		○それまで解りも切ったことだけれど，女は一人残らず独売根性をもってるなんて云ふ者が，結婚しようと思ったり，本気で女に惚れたりするのは，ちとへんぢゃないか。	282	こと・だ・～		

		○おかげで少しは人心地がついたとこひいたところだけれど、あんまり寝すぎたせいか、知ってるし寝たりないやうな気がする。	340 ところ・だ・～			「けれど」・「けど」(とくに「けど」)が使われやすい。
		○なくなってやしないけど、これぢゃ笑れやしないわ。	11 し・ない・～			
		○なんだって丁寧に越したことはないけれど、お前さんの御挨拶も ちっと堅っ苦しすぎるね。	94 ことは・ない・～			
		○面と向ったらどうだか知らないけれど、それぢゃなんとか かんとか褒めてばかりいらっしやらうなァ。	227 知ら・ない・～			
		○紅屋弁町さんも、方、気ばかりでいけれど、阿父さんに持ってって貰つたんです。	219 気ばかり・です・～			
		○でもね、あたしも変にお目にかからないんですけど、藤代さんって方、そんな方ぢゃありませんわ。	228 ないん・です・～			
		○あたし隣分でひらめいたけれど、この事についちゃ真面目なつもりです。	277 でひらめ・です・～			
6	し	○あなたが嘘つきでないのは云かまでもないし、これまで、あたしに明せずに来た気持も、よく解ってるつもりです……。	195 云かまでも・ない・～	有・[P56～]		○前置語の品詞 助動詞(終止形)―2 動詞(終止形)―1
		○銀行だってもめは知ってるし、先に角もうあいさつは普通の紳士以上には、どんな交渉もありやァしませんよ。	234 知ってる・～		○順逆あいまいに用いられるほうが多いのではないか。	
		○でもね、時刻が時刻ですし、なんだか面白くないことはないんでせうー。	237 時刻・です・～			
7	だけに	○一時でもそんな気になったことがあるだけに、今ぢゃ僕、女を信用しなくなってるんですよ。	292 ある・～	有・[P64.] 但し、[illegible]	○「せるか」・「せるで」「しめか」・「しめに」もこの類と同じようである。	○前置語の品詞 動詞(終止形)―1

8	にって	○そんなこと云つにって，第一今時分から帰れやしないわ。	19	云っ・～	有・[P66～]	○17例のうち，文末が否定，又は否定の意味をもつ語になつているものが12例である。	○前置語の品詞
		○そのべり，へんに思はれにって知らないよ。	20	思は・れ・～			動詞(連用形)―― 16
		○そんなこと，先生に隠しにって仕様がないぢァありませんか。	27	隠し・～			助動詞(連用形)―― 1
		○ほんぼ俺が附合がいっにって，大よけの喫茶にまで俺ふこにァないぢろう。	29	いっ・～			
		○それァなんてっにって，後者の魅力ってものは大しにもんぢよ。	32	なん・てっ・～			○注記
		○楽屋っにって実際の楽屋ぢァないぜ。	44	楽屋・っ・～			「なんにって」は特殊とすれば，他の
		○そこまで云はないっにって解ってらァね。	73	云は・ないっ・～			ものは，大部分，文末[あとの方]に
		○なんてにって女は赤ですよ。	88	なん・て・～			否定形が来る。
		○訊いにって無駄ぢね。	151	訊い・～			また，「ても」とほぼ同じ意味・
		○なんてっにって，お前さんはまぢ素人ぢよ。	157	なん・てっ・～			用法と思われるが，違いは何か。
		○さう仆附つにって，どっち向いて高圧けにしていんぢか分りませんやね。	166	仆附っ・～			また「仮定条件」と言っては
		○酔ってにって，迷惑ほかけおえよ。	170	酔って・～			おさまらない。意味のことも(確定
		○かう見えにってプロレタリヤでえ！	216	見え・～			的・眼前の事実)あるらしい。
		○今時分からどこへ行つにって，起きてゐうちほんてありやしませんわ。	238	行つ・～			
		○今時分から，どこへよつにって仕様がないぢァないの。	239	よつ・～			○「なんてっにって」・「なんとにって」
		○針金がなんかで結ひといにって，それァ追っかけるやうに	274	結ひとい・～			は，イディオム的である。
		見えっこありやァしません。					
		○まァさう怒つにって仕様がないよ。	289	怒つ・～			
9	たら	○新聞にでも出されたら困るぢァありませんか。	51	出され・～	意	○「～たら・イイ」の類，「～たら・ドウ」の類が	○前置語の品詞
		○ほんとか返事をしたらどうぢ！	64	し・～			動詞(連用形)―― 12

		○ それから、お嬢さんもおよろしかったら、御一緒にどうです。	88	およろしかっ・～		7例である。「たら」	助動詞(連用形) — 1
		○ 去年だって、まだ日数にしたら十日と経ちゃしまい。	109	し・～		の場合この用法が	形容詞(連用形) — 1
		○ なんてったら いっだらう。	151	なんで・っ・～		一番多い。	動詞(終止形) — 1
		○ 御当家御自慢の魚国茶でも食べたら どうだい。	230	食べ・～		[～たら イイ] — ダロウ	(体言) — 1
		○ ぢゃね、もし起きてるうちがあったら、よろかい。	239	あっ・～		ヂャナイカ	○ 注記
		○ あのね、もし起きたら どうするの？	240	起き・～		[～たら ドウ] — ダイ	「帰るったら、帰せよ」この例は変だ。
		○ 起きたら あがるのさ。	240	起き・～		— ダ	「帰ったら、帰る」または
		○ お酒を召しあがったら どうなさるの？	241	召しあがっ・～		— ナカル	「帰るったら！ 帰せよ！」どあるべき
		○ お客さんが早く帰ったら 一緒に寝てやらう。	270	帰っ・～		— スル	ところと思う。
		○ まて君 それにかけたら いっぢゃないか。	271	かけ・～		— デス	
		○ お暇があったら 一度来てごらんなさいな。	273	あっ・～			
		○ 帰るったら 帰せよ！	290	帰るっ・～			
		○ では、何時頃御伺いいたしましたらよろしいでせうか。	325	いたしまし・～			
10	ちゃ・ちゃ	○ うちに持って帰っとかなくっちゃ駄目だって云ったのよ。	10	なくっ・～	無	○ ～ちゃ・イケナイ — 18	○ 前置詞の品詞
		○ 歩いちゃ 大変だわ。	19	歩い・～		～ちゃ、ダメ — 4	動詞(連用形) — 24
		○ じょ、冗談いっちゃいけない！	26	いっ・～		～ちゃ、ツマンナイ — 3	助動詞(連用形) — 4
		○ いけませんよ、揶揄っちゃ。	27	揶揄っ・～		～ちゃ、カナワナイ — 1	形容詞(連用形) — 1
		○ 三好先生にかいっちゃ、あッしゃ、もうまるでなしだね。	42	かいっ・～		～ちゃ、タイヘン — 1	(不明) — 1
		○ 冗談いっちゃ いけない。	42	いっ・～		～ちゃ ドウ — 1	○ 注記
		○ 聞えちゃ いけないんですか。	47	聞え・～		～ちゃ イケ — 1	「ちゃ」(「では」相当)は あとに

○ それよりあなた，おつれさんなんぞ引張って来ちゃ駄目よ。	50	来・～		～ちゃ・ハジイル ― /	否定の意味のことばが、ここに多い。
○ これ，おろしちゃ いけないんですか。	54	おろし・～		～ちゃ・ナシ ― /	
○ どうだね，それぢゃ御遠慮なしに，そろ〳〵御招待の席へ罷り出ることにしちゃ。	81	し・～			他に「～ちゃ，どうだね」「～ちゃ，大変だね」があるが，これも，質問・意外の意で，否定と関係のある意味内容とみられる。
○ あと云っちゃ可厭ですよ。	96	云っ・～			
○ あなた吃驚しちゃ いけませんよ。	101	吃驚し・～			
○ そんな風に云はれちゃ恥入りますよ。	104	云は・れ・～			
○ 冗談いっちゃ いけない。	105	いっ・～			
○ 冗談いっちゃ いけませんよ。	110	いっ・～			○㊟
○ すぐさう小説にしちまっちゃいけない。	114	しちまっ・～			「現代語の助詞・助動詞」の て(で)の項のP82.に，[～ては](条件の提示)がある。
○ そこへ行っちゃ，君なんぞまだ駄目だよ，薄っぺらだよ。	125	行っ・～			
○ じゃ，冗談いっちゃ いけませんぜ。	132	いっ・～			
○ 君なんぞにさう偉くなられちゃ堪はないよ。	133	なら・れ・～			
○ 茶化しちまっちゃ いけません。	135	茶化しちまっ・～			
○ 嘘をついちゃ いけない場合なんだ。	151	つい・～			
○ そんな計画なんぞ立てて行っちゃ とても駄目だよ。	156	行っ・～			
○ 来ちゃ いけない。	180	来・～			
○ お澄さんは，出て来ちゃ いけない！	181	出て来・～			
○ 俺が自分でしなくっちゃ いけないんだ。	183	し・なくっ・～			
○ 冗談いっちゃ いけねえ。	227	いっ・～			
○ かう明るくっちゃ つまんないね。	236	明るくっ・～			

		○お書斎に行っちゃいけないの？	268	行っ・～		
		○だって，パパが行っちまっちゃつまんないなァ。	268	行っちまっ・～		
		○そいちゃつまんないや。	270	そい・～		
		○じょ・冗談いっちゃいけないよ。	277	いっ・～		
11	て・って	○理窟らしくって，気持で裏を云ってやァがる。	124	理窟らしく・～	有［P75～］	○前置詞の品詞
		○意地が悪いって，まあおよそあなたくらゐ意地の悪い方もめったにないね。	215	悪いっ～		動詞(連用形)―64
						助動詞(連用形)―6
		○そんなことはもう問題ではなくって，どうでもかうでもお自分ひとりの所有にしてゐたい，と云ふ希望なのですか。	331	なく・～		形容詞(連用形)―3
		○今日はなんかほかのことして遊びませう。	11	し・～		○「意地が悪いって，～」は
		○すぐそんなに本気になって怒るのいやだわ。	11	なっ・～		［意地が悪いと云ってなって］・
		○僕，意地悪いってごめんよ。	13	いっ・～		［意地が悪いと云って］と同
		○あなた早く二階へ行って，どの辺だか見て来て頂戴よ。	21	行っ・～		じ意味だが，この用法は
		○そこの入口ッチをひねって，塩さんをお二階におつれしておくれな	21	ひねっ・～		めずらしいだろう。
		○あたしは御免かうむってお先にやすみますよ。	23	かうむっ・～		
		○あゝ見えて，もう二十二三だらうね。	30	見え・～		○全用例総数415のうち73
		○この取意旦はきっと見物だらうと思って，是非とも今日は紀尾井町さんを引っ張り出すって云ってるんですよ。	30	思っ・～		を占め，もっとも多い。
		○いっそ引抜になって，フーさん，あっしですよ，とやっつけますか。	33	なっ・～		
		○冗談は冗談として，ほんとに今夜だけは，ひとつあたしに体を貸して	34	し・～		

くださいませんか。					
○ まア、じまって あッしにお任せください。	36	じまっ・～			
○ この忙しい歳尾に来て、鳴気な病気をやつしもんじなア。	39	来・～			
○ 男として、これ以上結構な褒められ方はないじらうちアないか。	42	し・～			
○ 楽屋口にしかつて来て、吾々の出這入りを見物してゐる子守ッ娘ね。	43	たかつて来・～			
○ 心気一転して筋肉労働者になる。	45	し・～			
○ 元ッ子は、先角にどうも薄情になつて困りますね。	47	なつ・～			
○ こんなうまい風をしてまだ風呂へも行かないんですよ。	48	し・～			
○ ちよいと失礼して お風呂に行つて参りますわ。	49	失礼し・～			
○ ぢア早速さう云つて知らせてあげよう。	51	云つ・～			
○ さア、この通り、手をついて改めてあやまりますよ。	56	ついて・～			
○ とんだこつてす。人様の御招待を控へて、---そんな---	69	控へ・～			
○ いつそざつくばらんにぶちまけちまはうかと思つてね、実は	69	思つ・～			
ちよいと迷つてたところさ。					
○ お待たせ申しまして すみません。	71	申し・まし・～			
○ 友達を誘つて置いて、たゞの一杯お相手もしないうちから	73	置い・～			
消えちまうなんぞは、ちつともの を知らなすぎた仕方だぜ。					
○ 三好君、なんとか前にお断りして立つたのかね？	73	お断りし・～			
○ 誠に失礼をしまして申訳ございません。	74	し・まし・～			
○ 二人よつて、眼ばかり白黒さしてらア。	78	よつ・～			
○ いま先生とあつしが、咽へ餅をつかへさせて大苦しみさ。	79	つかへさせ・～			

○それはそれでこゝで頂戴して，あちらはあちらで，十分にまた頂くことにしようぢアないか。	79	頂戴し・～			
○ぢゃ どうぞさう云ふことにして，料理を並べてくださいな。	80	し・～			
○どりゃ，座敷を変へて，飲み直さうか。	82	変へ・～			
○ど・同勢そろつて園へしますよ！	84	そろつ・～			
○あなたまで一緒になつて，先生はないでせう。	85	なつ・～			
○この年になつて，どうでせうあなた，麻疹ってのは---。	87	なつ・～			
○御免かうむつて，あたしもこちらでお相伴させて頂きます。	88	かうむつ・～			
○急に吃驚するやうな声を出して，さぁ，お悦話なさい！---って云ひますね。	91	出し～			
○吉原へ行つて横町芸者なるものに逢つてごらんなさい---。	91	行つ・～			
○するとあたしも，作為をやめて共稼か。	92	やめ・～			
○のらくら遊んでゐられるとあふ身分からして不当だらう。	124	い～			
○持つた甲斐があつて，たうとうお座敷がかかつたよね。	127	あつ・～			
○あつしもこれから大いに勉強して，人格の向上を計らうかな。	133	勉強し～			
○ぢゃ，そこは飛ばしといて先へ行かうか。	155	飛ばしとい～			
○お前さんもわしも病者になつて，獺みやうに諦めんぢゃ---。	155	なつ・～			
○あんまり買被つて，くだらなく貴方倒れにならないやうにとあふだけのこと。	156	買被つ・～			
○とんだ人にレンズを向けたと思つて，今ぢ後悔してゐるだらう。	157	思つ・～			
○こゝまで来て，大事なお客を電話でおとされてたまるもんか。	158	来・～			
○まだ云つてるぜ，傳にでも乗つけて帰しちまへ。	163	乗つけ・～			
○兎に角，下駄を穿いて立てよ。	164	穿い・～			

○この年令になって、相変らず坊ちゃんの厄介もんですわ。	188	なっ・～			
○実はあたしは、今夜あなたのことでむしゃくしゃに腹をたてて やって来たんです。	194	たて・～			
○常時売出の若手俳優だと思やがって嘗めたいに現麻をすりやがる。	205	思やがっ・～			
○つまりそこで、堅いやつにふりかけて、美かに引のばすのがお上手だ。	209	ふりかけ・～			
○どうぞ、一生懸命うまがって食べてやってください。	210	うまがっ・～			
○こゝは一つ侠気を出して、立派に君に花を持たしてあげるよ。	216	出し・～			
○そんな小僧っ子の口車に乗せられて、新婚早々の日に、いきなり千両 してやられるなんざァ、信さんにも似合はねえ、あんまり馬鹿ずた話だな。	223	乗せ・られ・～			
○それゞゝあなたがお一人になっちゃって、お淋しいでせう。	232	なっちゃっ・～			
○黙って大人しくしておいでよ。	240	黙っ・～			
○あがって どうするの？	241	あがっ・～			
○世間と云ふやつは、かう見えて、口やかましい道徳家ですとも！	252	見え・～			
○さうかと云って、事ごとに一次標準を押さうと云ふやうな。 反抗意識に燃えてゐるわけでは、勿論ありません。	258	云っ・～			
○余計なことを申しあげて、どうもすみませんでした。	269	申しあげ・～			
○あとで、紅茶でも煎れて持って来させなさいよ。	270	煎れ・～			
○みんな鈴江のうちに集まって やってるんだね？	273	集まっ・～			
○うちのママさんって、少し変人でして、あの通り鈴江の言ひなりなんです。	277	変人でし・～			
○それァまァ、君のやうに云って云へないこともないだらう。	282	云っ・～			
○誰が君等に騙されて 詩集の遺稿を読んだ奴やつがあるもんか。	287	騙され・～			

	○なんとなく気で天になって嬉しいもんじゃよ。	306	なっ・～			
	○ゆっくり聞いて頂きたいと思って それで一二時間のお暇を願ったわけです。	324	思っ・～			
	○早速御承諾くださいまして有難うございます。	325	くださいまし・～			
	○今日まで、なんのかんのと自分たち自身を誤魔化して、曖昧に逢ひ続けて来たことは、それが取りも直さずあたしたちの心持の程度を、最も正直に物語るものでせう。	332	誤魔化し・～			
12 で	○誤魔化さないで、はっきり口を利きねえよ、はっきり	38	誤魔化さない～	有.［P75～］	○前置詞の品詞	
	○無駄か無駄でないか、云ってみないで結果が分るもんかな。	64	云ってみ・ない・～		（体言 —— 18	
	○これァまァ、一杯君がのんで、それからのことにしようまいな。	73	のん・～		用言 —— 9）	
	○ちっともお構ひ致しませんで すみません。	79	致しません・～		動詞連用形 —— 3	
	○さう一人占にしないで、たまにゃ俺たちに頂戴せるもんだぜ。	109	し・ない・～		助動詞終止形 —— 6	
	○往来を泳いでたまるもんかね。	140	泳い・～			
	○そんな人の相手に成ってないで、早くこちらへおはいンなさいましよ。	205	成って・ない・～			
	○それは訊かないで、まァ二人で一緒になって勘考してくれないかねえ。	239	訊か・ない・～			
	○お坊ちゃま、さぞおみ大きくおなりで、お可愛ゆいことだらう、なんて、始終ひとりで思ひ出して居りますのですよ。	309	おなり・～			
［参考］	○と云かわけでね、この取組は、あっしゃァきっと面白からうと思ってるんだ	25	わけ・～		○以下の19例は、「…デアッテ、…ニヨッテ」の意の「で」。名詞が前置されるから、	
	○自分芸にかけては達人で、そ　大根だとでも思ってるのかね？	42	達人・～			
	○一番さきが荒次郎さんで、あとは大抵丸の順に引っ込んで行きますね	82	荒次郎さん・～			

		○女将さんのお妹ごさんで，お澄さんと申されます。	93	お妹ごさん・～		接続助詞としないで，助動詞（断定「だ」の連用形）に入れる考えが多いであろうが，句格構成の面からは参考にするに足りるから，ここにかかげる。 そのうち［そんなわけで］［と云ふわけで］などは接続詞に近いであろう。
		○こちらが藤代信之さんで，あちらが三好周夫先生。	93	藤代信之さん・～		
		○東北鉄道が国有になったお祝いで，はなの間ずうっと会社の買切でした。	100	お祝ひ・～		
		○それゃほんとうに陽気な，面白い方で…，さいぜん今もってお達者…。	100	面白い方・～		
		○若者碌と云ふやつで，つまり幸四郎ですな。	105	やつ・～		
		○雑誌の，----こないだ話した「高踏」って雑誌の編輯人で，脚本なんかも書いてるひょっこ文士さ。	150	編輯人・～		
		○そんな無駄を云ってる手間で，早く腰掛でも出して来いよ。	205	手間・～		
		〈 1例削除 〉				
		○そんなわけで，初めからあたしに好奇心だけしかなかった。	279	わけ・～		
		○同時にまた，その同じ理由で，一層好奇心だけは刺戟されたわけさ。	283	理由・～		
		○然しおかげで，あたしの気持だけは，それでさばしちまったのさ。	285	おかげ・～		
		○君はまたどう云ふつもりで，そんなものを持ち出した人だね。	286	つもり・～		
		○憎まれ盛りで，手におへたもんぢゃない。	309	憎まれ盛り・～		
		○やっとこれで，少しはものの食へさうな腹になった…。	316	これ・～		
		○御摩文さんの御在世中には，実に一通りならない御贔屓にあづかったもので，いや，全くお見あげ申した立派な御人格の方でしたよ。	328	もの・～		
		○おふた方のおかげで，あたしにも，ぼんやりながら自分と云ふものが解って来たやうな気がいたします。	334	おかげ・～		
13	ても・っても	○たってほったらかしといても大丈夫だって云ふんですもの。	10	といっ・～	有・［P 93～］	○前置詞の品詞

		○あなたが門のとこから真っぐに帰って来ようとしても、あたしゃ承知しませんよ。	19	し・～		○〔～てもイイ〕の類が全16例のうち5例を占めている。	動詞(連用形)―― 14 助動詞(連用形)―― 1 形容詞(連用形)―― 1
		○懸賞をつけてもいい。	34	つけ・～			○注記
		○彼方へ行っても、高にばかりの気で、勝手に振舞ってやりゃせうよ。	82	行っ・～			〔～としゐっても〕は〔～としても〕と〔～としゐって〕との混淆(コンタミネーション)で生れた本来誤用の形式と思う。(東京方言だけかどうか不明)
		○どっちへ廻っても、あたしと云ふものは、まるでなしでございますね。	116	廻っ・～			
		○上に馬鹿をつけても いくらゐかも知れないわ。	151	つけ・～			
		○行っても いゝんでせう？	180	行っ・～			
		○ですけどあたし、どんなことがあっても、あなたと別れるのいや！	194	あっ・～			
		○どんなことを聞かせても、あたしがあなたを嫌ひになるの、可厭になるのってことは信じてない。	197	聞かせ・～			
		○弱くってもなんでも、もう決してお目にかゝりません。	199	弱くっ・～			○ふつうは、「なににしても」「なんにしても」であろう。あるいは、そう読ませるつもりだったかもしれない。
		○今夜は俺ァどんなに滝口に御馬乗になっても、いい試があるんだ	217	なっ・～			
		○何しても 結構な御身分さ。	220	し・～		○〔何しても〕――副詞的	
		○前から御存知だったとしても、そこは思はずにはいられっこの、	226	し・～			
		○どこまで行っても 気持の上の繋がりと云ふものが出来て来さうもないやうに思はれたのだ。	279	行っ・～			
		○今ァその事件に就いちゃ貴方は、いくら世間にぱっとしゐっても、一向平気なもんですかね……？	285	しゐっ・～			
		○電気をつけても いゝんでせう？	366	つけ・～			
14	でも	○誰彼と云はないでも、凡そ男ってそんなもんだらうぢゃないか。	29	云はない・～	有〔P73～〕		○前置語の品詞

		○それァもう，云はないでも，世の中のことは大抵不当だよ。	124	云はない・～		助動詞(特殊連用形)——3
		○そんなに仰有らないで，これがあなたへにあげようと思ってるところですよ。	219	仰有らない～		○注記
						[云はないでも]と[云はなくても]とはたしかに，意味に違いがないと思う。「ないで・なくて」の問題と同じ。
15	と	○然し雪だと，またこれでお物入です。	28	だ・～	有・[P110～]	○前置語の品詞
		○さうだと，あたし，あなたにお目にかゝるの，今日が初めてぢァありませんわ。	98	だ・～		動詞(終止形)——15
		○その心理を解剖してみると，楽屋に対する興味だ，見てはならないものに惹かれる憧憬だ。	42	解剖してみる・～		助動詞(終止形)——11
		○ところで授産と来ると，その「肚の底のしつかりしたもの」を，永い伝統をもつた「楽屋」で間に合せることが出来るんだ。	43	来る・～		○注記
		○今いふお白湯を呑むと気のふれる連中に，二人組んでやってるのがありませう？	91	呑む・～		[さうだと]は[さうだとすると]の縮約によって生じた形だろうが，[静かだと][立派だと]と同様，[さうだ]が形容動詞風に(つまり「そういう状態だ」の意味に)使われているとも見られる。
		○うまくいくと，あの通り---- ってやつね。	92	いく・～		持例として扱う。
		○どうかすると，親愛なる，なんてのが抜りますね。	98	する・～		
		○そこへ行くと，お澄さんは，どつかちよつと手強いとこがある，一通や二通の附合では肚の底が知れないやうなところがある。	116	行く・～		
		○あっしに女が出来ると，先生に御心配をかけることにでもなるんですか。	133	出来る・～		○「～とみえる」は「～らしい」に相当する複合述語的である。
		○僕に兄をぬいだと云ふと，つまり，ソジン(素人)にメ(女)でも出来たとか。	135	云ふ・～		

出来かいつたとか云ふやうな語かね？

○穿くと自動車に乗せるだらう。	164	穿く・～
○そばによるとくせえよ。	165	よる・～
○うか〳〵相手になつてると，いやうに二人に遊ばれちまふよ。	205	なつてる・～
○そこへ気がついたところをもつてみると，三好先生もちよッと苦労をしましたね。	205	もつてみる・～
○さうかと思ふと，ほら，先達てお話したでせう？	273	思ふ・～
○今から思ふと君のことなんだ。	284	思ふ・～
○そして，ひとつ要領よく手短かに願ふとしようぢゃないか。	325	願ふ・～
○それでも，あたしが病気だつてことだけは分つてたとみえるわね。	56	分つてた・～
○旅さきでなんかよつぽどいことでもおあんなすつたとみえますね。	349	おあんなすつた・～
○お面を被つて行かないとはいり悪い。	86	行かない～
○あなたは少しお慎みなさらないといけませんね。	105	なさらない・～
○われ〳〵編輯同人には，編輯費以外に，月々五六百円の機密費を出してくれないと困るね。	121	くれない・～
○いつ加減にしときなさらないと，仕舞にやとんでもない目におあいなさいますよ。	269	なさらない～
○假令何がどうあらうと，嘘をつくなァよくねえぞ！	177	あらう・～
○假令何がどうあらうと，嘘をつくなァよくねえや。	193	あらう・～
○一応挨拶を申しあげますと，もと〳〵あたしは，お潮――，お潮さんに，貴方のやうな方があると云ふことは，全く知りませんでした。	331	申しあげます・～

○「どうかすると」・「そこへ行くと」・「さうかと思ふと」などはイディオム的である。

○「～と来ると」は複合辞的である。「～と来たら・～と来た日には」などと同類で，提示の助詞的に使われよう。

○「――スルとしよう・――スルとしたい，――スルとすれば」などの「と」は引用の格助詞だろう。しかし「――スルとみえる」（「らしい」に当たる）と同じく複合述語的な表現になっているだろう。

○「――シナイといけない・困る」の類，あとに否定的な意味のことばがくる。

〈 1 例 削 除 〉

16	どころか	○へんに思はれるどころか、あなに親切だって、きっとおれを云はれるぐらゐなもんよ。	20 思はれる・～	有・[P120～]		○前置語の品詞 動詞(終止形) — 1
		○めったにどころか、絶対に出やしませんよ。	31 めったに・～			助動詞(終止形) — 1
		○ふざけるどころか、こっちは大真面目だ！	287 ふざける・～			副詞 — 1
17	ところで	○どう云ってみたところで、それに違ひないぢゃないか。	29 云ってみた・～	有・[P122～]		○前置語の品詞
		○申しあげたところで無駄なことです。	64 申しあげた・～		○ 文末は、否定、又は否定の意味をもつ語で終止している。	助動詞(終止形) — 5 「～シ＝ところで」の形で「～シても」相当。
		○どうせ並べてやったところで、なんにも頂けやしませんわ。	89 並べてやった・～			
		○と云ったところで、何も色っぽい話ぢゃねえよ。	218 云った・～			
		○よほど大きくなかったところで、どうにもしやうがありゃしない。	337 なかった・～			
18	とすれば	○もし悪いと云へるとすれやェ、あたしを信用してくれなかったことだ。	197 云へる・～	有・[P105]	○形式名詞・[もの]に接続する例が多いと思う。	○前置語の品詞 動詞(終止形) — 1
		○今後もし貴方がたが逢い続けて行くものとすれば、そのうちには、またどう変って来ないものでもない。	333 行くもの・～			名詞 — 1 [たがし「もの」]
19	ながら	○いやに反抗的な態度を見せて置きながら、云ふことがないもないもんだ！	64 置き・～	有・[P128～]		○前置語の品詞 動詞(連用形) — 4
		○お白湯を含みながら、ひとりでうかれてる気違ひが、必ず	91 含み・～			「失礼ながら」— 1

		一人や二人は出て来るよ。					○［失礼ながら］は、［失礼ですけど］
		○一方にそんなことをして置きながら、平気で信さんは、妹の	116	置き・～			という形で使われるほうが多いと
		お澄さんの方に餘計な好意を示すんですよ。					思われるので、［残念ながら］程
		○失礼ながら、一体貴方はどう云ふことをなすっておいでなんです。	321	失礼・～			ではないかもしれないが、
		○内々感心いたしながら伺って居りました。	333	感心いたし～		○動作並存の「ながら」	副詞的である。
20	なら	○そんなら いゝでせう？	11	そん・～	無		○前置語の品詞
		○あッしやァ、さうなら さうと正直に云ひますよ。	27	さう・～			体言 —— 20
		○それぢァ、揃って出かけてみたところで仕様のない話ぢァ	31				動詞(終止形) —— 8
		ないか。たゞ晩飯を食ひに行くだけのことなら——、		こと・～			助動詞(終止形) —— 1
		○かけるくらゐなら、ちっとでも早い方がいゝよ。	32	くらゐ・～			○「なら」の扱いについて。
		○もしなんなら、こちらからお迎ひの自動車を差上げませうか。	34	なん・～			① 体言(相当)＋なら＋▨
		○こんなことなら、はっきり懸賞をきめとくんだっけなァ。	36	こと・～			とみるか、
		○かう云ふ安いとこなら、いかに文筆労働者でもうけきうけられるよ。	36	とこ・～			② 体言(相当)＋▨＋なら
		○もしなんなら、取捲料の名目でもいゝや。	123	なん・～			とみるか。
		○初めッから、女を持へるのが目的でやる人格修養なら、	133	修養・～			
		まァ～大したことはないね。					○［そんなら］・［それなら］・
		○いゝだらう、あすこなら、ちょっと話も出来る。	150	あすこ・～			［さうならさうと］・［もしなんなら］
		○そんなことなら お手のもんぢやよ。	150	こと・～			［そんなことなら］・［こんなことなら］
		○フリッツなら、大抵うまくやれさうだよ。	151	フリッツ・～			等は慣用的である。
		○酒さい呑ましてくれるうちなら どこでもいゝや。	166	うち・～			

		○怒し・お前さんならいや。	175	お前さん・～		
		○それくらゐなら、何も態々僕を突き棒に引っぱりだすことはないだらう。	215	それくらゐ・～		
		○それくらゐなら、百円札で十遍けつでもふいた方がまだましなくらゐだらう。	222	それくらゐ・～		
		○云ひかけたことなら仰有いな。	227	こと・～		
		○そんならいつだらう？	240	そん・～		
		○だが、あたしは、それならそれでいいと思ふんです。	252	それ・～		
		○お客の立込まない時分なら、一晩や二晩暇がとれないことはないだらう。	309	時分・～		
		○同じ降るなら雨ぢゃつまらない。	28	降る・～		
		○信さんが来るんならなほ都合がいや。	121	来るん・～		
		○うまくやつてると思ふんなら、いつでもあなたに締輯の仕事をお引継ぎしますよ。	123	思ふん・～		
		○不当を云ふなら、信さんの所有物の一切が不当だらうぢゃないか。	124	云ふ・～		
		○すぐカフエエと出るやうなら大したもんだ。	168	出る・やう・～		
		○かぶつてゐなかつたんなら、それぢ落して来たんだらう。	170	ゐなかつたん・～		
		○銀座に出るんなら、あつちですよ。	175	出るん・～		
		○そんな卑怯なまねをなさるんなら、あつしゃもうこれっきり断然絶交だ！	215	なさるん・～		
		○怒し断つてと云ふなら、今夜でもわしの部屋に来たまい。	325	云ふ・～		
21	ので・んで	○いつかもあたくしから、一度お願ひしたことがあると思ひますよ。そこの女将が大へん贔屓にしてくれますんで……。	34	くれ・ます・～	有・[P174～]	○前置詞の品詞 動詞(連体形) —— 1

		○あんまり御機嫌がいゝんで、ついうつかりお顔を見入つちまいましたよ。	68	い・～			形容詞(連体形) — 1
		○あの役をやる奴なんぞは、今から馬鹿らしいとかなくあつて馬鹿目だつてんで、一日三界庭で鶯鳥と話をしてやがるんですよ。	273	だつて・～			助動詞(連体形) — 1 ○「ので」は書き言葉的であるから「んで」のほうが用例が多い。
22	ば	○今時分一人で帰つて来たなんて云へば、それこそ叱られちまふわ。	20	云へ・～	有・[P194～]		○前置語の品詞 動詞(仮定形) — 5
		○今から思へば、なんのことはない、みんな芸者が出方代りに使はれたんですわね。	100	思へ・～			助動詞(仮定形) — 1
		○さう云へば、その想像は、ぴつたり的中してゐるかも知れませんぜ。	114	云へ・～			形容詞(仮定形) — 1
		○と云ふと、白ければ白いほどいゝんですか。	134	白ければ・～		○「～ば～ほど」	
		○それだけは、あたしに云はせれば、慥かにいゝことだつたなかつた。	197	云はせれば・～			
		○番頭さすれば黒猫亭とでも云ふ、洋食屋を、御兄君と二人で経営なすつておいでなさる、柳沢美津枝嬢――。	207	番頭さすれば・～			
		○映画となれば、勿論鈴江嬢主演ってことになるんだらうね。	276	なれば・～			
23	ひにやァ	○それで女が出来なかつたひにやァ、人間、半分みたいなもんですね。	44	出来なかつたひに・～	無	○後続文は必ず悪い意味を含む文になる。	○前置語の品詞 助動詞(連体形) — 2
		○そんな嫌いことを云つてたひにやァ、相手を退屈させちまふばかりだよ。	155	云つてたひに・～			○「～シたひにやァ」の形。
24	もんですから	○生憎、二三日前からお嬢さんがうちへ帰つてるもんですから、馬鹿れない人たちばかりで、ほんとに困つちまうんですよ。	79	帰つてるもん・～	有・[P38]		○前置語の品詞 動詞(終止形) — 1 ○話しことば的接続助詞である。
25	は、変化形 [～やァ]	○もつと正直にいやァ美しいもんだよ。	43	い・～	無		○前置語の品詞

	○三十九年と云ヤエ，信さん，あなたは十九ですね。	103	云・～		動詞(反定形)	6
	○不当を云ヤア，それア君の云ふ通りどっちも不当だよ。	124	云・～			
	○置してみろ！――なんにも云はなかった，と云ふことは，理屈で云ヤア嘘だアない。	194	云・～			
	○だから，その束縛だと思ヤア安いもんさ！	218	思・～			
	○一口に云ヤア，あの女には結婚なんて，一生する気はないんですよ。	278	云・～			
[－りやア・りゃ]	○あたしだって歳尾が来りやア人並に忙しいんだよ。	56	来・～	無.	○前置語の品詞	
	○活動で積はないとなりやア，あとは万事わしがうまくやるよ。	150	な～		動詞(反定形)――	6
	○いざとなりやア退屈させるやうなへまはしやしないよ。	155	な・～			
	○これだけの女優さんがねりやア，あっしやすぐにも帝劇に買はれて行くな。	208	ね・～			
	○そんなとこを見てる暇がありやア，加藤さんの演説でも読まアな。	209	あ・～			
	○自動車でくるッと廻りゃなんでもないんだ。	232	廻・～			
[－れア]	○さうとすれア，いづれ女将さんの住まひる部屋に通される。	28	す・～	無.	○前置語の品詞	
	○ほんの口をよごしてやりさへすれアいゝんですよ。	35	す・～		動詞(反定形)――	10
	○もしお討定がなければあすこにしてくれない？	47	なけ・～		形容詞(反定形)――	3
	○そいだって，貴方の顔を見れア なんにも云へやアしませんよ。	51	見・～			
	○往復とも通用するよ，相手が馬鹿でさへあれア 。	67	あ・～			
	○二十七年生れとすれア，まだ子供の筈ですわ。	101	す・～			
	○さうだとすれア，矢っ張り一種人格の力，とでも云ふやうなことになるね	133	す・～			

	○俺が云ふんで気がすまなけれァ、よっく自分の心に訊いてごらん！	201	なけ・～			
	○まァ相撲の星で云ってみれァ、つまり半星と云ふやうなところで。	214	み・～			
	○それほどまでに可愛がれァ、慈悲憐愍の情をかけて行かずに置いてやらう。	215	可愛が・～			
	○ぢァ、三好君も引っ張って来れァよかつたね。	239	来・～			
	○さうとすれァ、もうこんなものも値にやァなりませんかね。	285	す・～			
	○ぢや どうすれァいゝんだよ。	289	す・～			
[きやァ・きァ]	○さつきも云ふ通り、悪ひつかなきァいって、みんなが心配してゐるくらゐですよ。	31	悪ひつかな・～	無	○前置語の品詞	
					助動詞(仮定形)	3
	○もっと どし〳〵出させなきやァ妾だよ。	125	出・させ・な～		動詞(仮定形)	1
	○真心に訊きやァ きっと俺とおんなじことを云ふよ！	201	訊・～			
	○勝手でもかけなきやァ口を利く威勢もねえや。	206	かけ・な～			
26 連用中止形	○もっと広く、抽象的に云つた楽屋の意味だね。	44	広く	無		
	○君が、真面目で、それから辛抱なのが、大へん愉快です。	277	真面目で			

分類番号	見出し語	用例	テキストページ	備考
1	が，□	○嘘だとは思はないが，一体君の話は大袈裟だから----。	31	
		○僕ァ然し，一応は勧めるが，もと〳〵局外中立の立場だからね，責任はもたないよ。	35	
		○僕は一度三好君と一緒に行つたことがあるが，もとはと云へば，瀧十郎の顎頁筋のうちなんでせう。	111	
		○飲ませようとするが，歯を食ひしばつてゐて中にうまくいかない。	114	
		○----あたしに素敵な名評があるんだが，つまり「無智と色気の象徴」と云やァよく解るやうな女なんです。	116	
		○どこつてこともないが，いつまで芝居にゐたって仕様があるまいぢァないか。	117	
		○それに，どのくらゐあるものか知りませんが，藤代家にだって，なにも金の生る樹があるわけぢゃなし，まァあれ以上と云ふのは，少し不当でせうよ。	124	
		○まァ〳〵そんなわけだが，然し，無論それァ，多ければァ多いほど結構さ。	128	
		○少しお気の毒だが，まづお互にと云つてもよかろう，お互に----。	130	
		○わしァあんまり好かんが，銀座に出るのは賛成だから，ぢァバスにしようよ。	140	
		○いろ〳〵考へちァみたんだが，矢っ張りねたは活動写真ぢゃね，ほかにどうも，わしでやれさうなことがないもの。	150	○「もの」は，終助詞とみることもできる。
		○それァいが，何故お前さんは，帽子を買ってくれるくらゐの親切があって，ウキスキイ一杯のませねえんだ！	170	
		○嘘つきはいけねえが，お前さんは正直だからいや。	173	
		○なんだか田ありがなひそ〳〵話だが，よし野と云やァ，おもんさんのとこだらう----。	186	
		(○阿母ァの前だが，お前っちの爺さんと来たひにやァ，よっぽど奄禄してるぜ。)	(218)	○「と来たひにやァ」は「タラ・ッテバ・ッテ」と同類の係助詞相当とみられるから，この用例は 1.1 に回す。
		○だがいつも云ふことだが，口を利く前にもうちっとよくものを考へてみる癖をつけないといけないね。	269	
		○単純なことは重に浮く知だが，事の運びが悪いんだから，どうもそれも仕様がないと思ってゐるんだ。	280	
		○俺の云ひ様も少し乱暴だつたかも知れないが，それはまァ友達同士のことで，もとより悪い気ぢァないんだから	288	

	○ 云いとこは要りませんが、どこか静かな部屋があいてゐら----。	300	
	○ まァ、爪そはさうなって居るんでございますが、忙しい時分にはお互にすけ合ひますから---。	309	
	○ 恒造か君は弁護士をしてゐるとか云つたやうだが、一体どう云ふ権利があれば、そんな要求を、やたら他人に対してすることが出来るものか、後学のために、そいつを一つ承はつて置かうか。	323	
	○ 何も特別の御馳走も無もございませんが、もしお暇でしたらつてね、よく丁寧にさう云つておくれよ。	343	
から、 □	○ 萩原なんぞうるさいから、いっか加減食い荒らしたら二人でうまく消えちまふんですね。	35	
	○ それもさ、実はかう〳〵斯々だからと、ちゃァんと訳を話して---。	73	
	○ そいつを、一人ぢゃ出来ないから、とかなんとか云はれて、のめ〳〵付合ふ気になつたのは、一生の不覚だね。	115	
	○ 大きな嘘をつくための材料にするんだから、正直に云はなくちゃ、馬太目だよ。	151	
	○ ちょいと汚いものを見るんだから、二人ともそっちへいっちまって、戸をしめといてくれないか	181	
	○ でもね、この道ばかりはまた別だって云ひますから、それァね、あたしどもにゃ解らないやうなことも、それァおあんなさらない限りぢァありませんからねえ。	229	
	○ あたしは永いあひだ世間と云ふものを観て来たから云ふのですが、世間と云ふものには、何よりも信用が大切です。	252	
	○ もと〳〵あたしは、今の世の中を決して有難がったり好いたりしてはゐないんですから、今日が日もの別れになつたつても、少しも未練は残さないつもりです。	259	
	○ それァしかけた話だから、ゆっくりお仕舞まで聞いて貰ふがね。	281	
	○ いつの間にかもう丸三年になりまあから、どつちかと申せば、古顔の部になつてゐました。	309	
	○ あなたのお辛いのは、よっくあたし解ってるんですから、さぞ苦痛いでせうけれど、もうちっとのま辛抱してくださいね。	312	
	○ これから晩食をやるから、---さうさ、今から三時間ほどしたら出かけて来たまい。	325	
	○ まして藤代大人の御子息と伺つたからは、是非ともお近づきのお盃も頂きたいし----	329	

け(れ)ど・□	○ お約束になってるんですけれど，他ならないあなた様のこってすから---。	47
	○ でも，おかげさんで，もう発疹はすっかりひいたんですけど，冷たい風にあたるのがいけないってますから----。	49
	○ 昨日来るって云ってたんだけど，つい忙しかったもんだから----。	50
	○ 年忘れやら，金策----でもないけれど，まさまお床上げの祝いを兼ねて，あたしが皆さんをおよびするわ，この部屋で皆さん御一緒に，一杯召上って頂くわ。	59
	○ みんなもいい加減酒はぼちぼちやってからのことですけれど，女将さんとは，慥かにゼッゼッまでいってるんですからね	112
	○ つまり六七年前に，一度でも顔を合はせてゐる，----どころぢゃない，詳しい話はしようとう出なかったけれど，何か少しぐらゐ色っぽい場面もあったらしいから，その懐旧の情ですかな。	113
	○ さう感じれば感じるほど，いづれつまらない虚我慢には違ひないんですけれど，いよいよもってそれに捲かれる気がしなくなるんです。	258
	○ なんでもないんですけど，ちょっと へんなこと考へついたもんだから-----。	281
し・□	○ 君なんぞはまア，なかぢア，実際にもい男の方だし，その道にかけちゃ力論達人だし----	41
	○ 貴方の御気持が，さう云ふ風に，—さァなんてったらいか，風流と云っても当らないし，—つまりまア俗を脱していらっしゃる点は，大へん面白い。	259
	○ わしは，他からゆすられるやうな弱い尻はもって居らんし，従ってまた君を，ゆすりだなんぞと思ふ理由もないんだから，その点は君こそ安心したがいいのだ。	325
たって・□	○ どうして，君なんぞは素人にしたって一人前は十分だから，つまり一人前半だよ	44

	○隠しだつて高木目だよ。ちやんともう種はあがつてるんだからね。	108	
	○はたから想像しだつて，それァどつちにも悪くない記憶に違ひありませんからね。	113	
	○尤もそれァ誰が見だつて女将さんてえ人は，なんとなく底の浅い感じでしてね。	116	
	(○女にもてすぎる税金としてだつて，相応出しても いゝ筈ですよ。)	(122)	○「だって」は副助詞につき，1.1に回す。
	○それはいとしだつて，どうも吾に男の目には，どこ一つこれはと云ふやうな，目立つたところがあるとは思はれませんからねえ。	132	
	○穿かなくつだつて，あんまり愚図々々云つてれァ擔ぎ込んぢまふばかりだ。	164	
	○なんてつだつて腹違ひだからね，そこは女将も水臭いやね ---- 。	186	
	○あたしなんぞ，もつどうなつだつて，ちつとも構やァしませんけれど，あなたに，—なんにも御存知のないあなたに，そんな ----，お顔に ---，お顔に泥を ---- 。	196	
	○それァ知つてますよ。なんてつだつて，わつしァあなたよりナ以上もとだもの ---- 。	208	
	○兄妹で経営してるなんて云つだつて，その兄貴が，どんな兄貴やら，芸者の兄さんほどにも当になるんぢァなし，勿論 処女でないことは知れきつた話 ---- 。	214	
	○記尾井町さんがこゝへいらしつてだつて，あなた方の話でも出た場合に，これいばかりでも蔭口なんぞ仰有つたためしはありァしませんぜ。	227	○「場合(に)」は，一方では「たら」に近いだろうが，一方では「時(に)」に近く，複合辞として扱うかどうか，問題であろう。しばらくここに置くこととする。
	(○幾んぜかあつだつて，それで色魔と限りやァしませんや。)	(228)	
	○うちはいくら暁くなつだつて，ちつとも構やァしませんから ---- 。	235	
	○なんてつだつて，問題はこつだからね。	293	
	○一口に関係と云つだつて，関係にもいろゝあるからな ---- 。	323	○テキストページ(228)の用例は，1.2に回す。
たら・□	○さう云ふことになつてるんでしたら，このまゝおさだして ---- 。	79	

	○全くこの分でしたら、いつが日役者をやめるやうなことになつても大丈夫であわね。	92	
	○どつからどう云ふ風にもちかけたら、一番いつのかしらんと思つて、実は近頃、ひとりで時々それを研究してみるんだがね。	123	
	○でも、せ将さんの一番すきなんに逢つたら、さう云つてくれてもいゝや。	176	
	○みんな時間になつたら寝なきやァいけないぜ。	270	
	○今ふいとそんなことを考へたら、学者なんて甘えもんだ、つてやうな気がして、つい可笑しくなつちまつたんですよ。	281	
ちァ・□	○実はあッしも、今度はちよつと、先生の前に男をぬがなくつちァならないはめに立至つてるんですがね--。	135	
	○ずるゝ引摺られて行くやうなテうになつちまつたりしちァ、なんぼ喜劇だつて、それこそお笑ひ草でさァ。	274	
	○お前みたいなもんの女房には、あゝ云ふ気の勝つた人でなくつちァ駄目だ、なんて云つて---。	277	
(ン)て・□	○丈も好きだつて、お前さんにやァなれやしないから安心おし。	158	
	○そいで、大抵はあたまがよくつて、器用で。	223	○「ーで」は連用形。
	○いつちァないか、腹臭くさくつて、わしゃあの機関の焼けた匂ひが大好きぢゃがねえ。	140	
	○ぢァいゝわ、どうでも勝手になさい、さっき泊つて行くつて云つといて、男のくせに----。	20	○「ーのくせに」「ースルくせに」の扱い、問題だが、しばらくここにおく。
	○お前さんいつまでも窓から顔を出してて、風邪をひくといけませんよ。	23	
	○二十一にもなつて、芝居でたつた一遍見かけたつきりの男を忘れかねて、くよゝしてるなんて娘さんが、今時実際にあるもんかねえ、ちよつと信じられないくらゐだな。	30	○「ースルといけない」複合述語か。
	○何しろ、表面のあたりはどこまでも明るく気さくで、それで肚の底になんかしつかりしたものが感じられる。	43	○「ーで」同前。
	○兎に角あなたは不謹慎ですよ。あゝ云ふ哀れな生活を見て、すぐ芝居に結びつけて考へるなんて---。	45	

○どうもすみません。なんですか突ンとこへ来て くだらなくごたついちまつたもんですから---。 54

○それッさうとね，実は今日は，お見舞を兼ねて，御飯を頂きに出たんですがね。 58

○河内山が往復切符を買つて はいつて来ちゃいけないなァ 67 ○「～シちゃいけない」複合述語か。

○いゝ年をして，やたらと赤いものが好きなところなんぞ，どつちかと云やァ庵摩神に御縁のある方かも知れませんよ。 87

○たゞいくらか口が贅沢になつて，お白湯よりお酒の方がいゝなんて云ひますがね，その代りには，どんなお座敷でも唯です。 91

○赤い布で頬被りをして，太夫の落した毬を，拾ふと，これはやり損ひ---。 92

○而も，なんか云はれて困るやうなことがあつたとすると---。 96

○この，垂涎の水を切つて，かうちよいと絲底へ二本の指がかゝつて---。 97

○一体あたしは忘れッぽい質のところへもつて来て，何しろ旧い話ですからね。 104

○実際なんとかして，もう少し金を出させる工夫はないもんかね，三好君なんぞは，だいぶんうまくやつてるらしいが，中に僕等までは潤つて来やァしないよ。 123 ○ 2文ともみられる。

○で，まあ一番に，今の日本の活動の会社が，何故くだらないフイルムばかり拵へてゐるか，その原因を話して，個人経営の，ほんの小さな組織のものの方が，きつといいフイルムが出来るんだし。 155

○これを真直に行つて，橋を渡れァすぐ木挽町の二丁目だらう？ 175

○尼介ついでに，一生姉さんの世話になつて，---いよゝ食べさせてくれてがなくなつたら，まァ尼さんにでもなんにでもなつちまふんだわね。 188

○それも，だゞ嫌ひだつたと云ふだけぢァなくつて，あいつ，---一人と云ふわけでもあるまいけれど，つまりあいつ等一味の人間には，いどい目にあはされてるんだ。 196

○それは，あたしが，あなたの心を信じて，ちつとも疑はなかつたからだらう？ 197

	(○なんですか、ちっとお加減が悪くって、二三日前からおやすみナンなっていらっしゃるとかって---。)	(219)	○ I.1に回す。
	○だからあいつら仲間の、珍らしい変ったことでも、誠そらごと取りまぜて面白可笑しく話すのを聞いてる分にゃア、こっちが暇な時なら丁度いゝ相手さ。	223	
	○なんとか云って お断りンなったら どう？	267	
	○さう云って悪けれど、ちょいと君の霊魂に、賭をしてみたんだ。	287	
	○まア落ちついて、ゆっくり一つ考へてみたら どうだい。	288	
	○ほんとに一度お伺ひして、久振りで皆様のお顔が見たくって仕様がないんでございますよ。	309	
	○これは、お澄に代ってあたしから断言しても、あながち依怙のシたんにはあたるまいと信じます。	333	
	○まアさ、さう云ってお土砂をかけられたら、すなほに、成程それもさうだ、と思ふやうでなくっちゃ---。	27	
で・□	○もう一つ突っ込んで云やア----	76	
	○と云ふやうなわけで これでお座着がすむと、すぐトーンと来ますね。)	(90)	○「で」は連用形。 1.1に回す。
	○十二時頃まで飲んで 瀧だけ無理にあとへ残して吉には引きあげちゃったんです。	116	
	○もうまるでぐでんゝで、俥から転げ落ちるやうにはいっていらしって、俥夫を相手に飲むだなんて---。	225	
	○まアさう云はないで、御面倒でも、ちょっと伺してみてくださいな。	232	
	(○勿論それア、所謂世間態と云ふやつで、君たちのやうな血気盛な方々から見たら、くだらない虚偽でせう。)	(252)	○「で」同上。 1.1に回す。
	○ちっとも存じませんで、つい失礼ばかり申しましたが、どうぞまア悪く思はないで下さい。	328	
ても・□	○四十は可哀想としても、五つ六つは慥かに老けてるよ。--我が親愛なる瀧さんの前だけれど。	39	
	○それにしても、若し君が素人だったら、今の四分の一ほどでも、せたちにちやほやされるかどうか、分りやしないぜ。	42	

	○ 泣く子をびますくらるの根気まではあつても，地頭をやり込めるやうな卓見や勇猛心をもつてゐるわけではないんですから，大抵なことまでは，ひと一倍引込思案な方です。	258	
	○ 一昨年の春，と云つても，四月末か五月頃だつたと覚えてゐるが，小造かにあたしはあの女と関係しましたよ。	279	
	○ もつと狭くつても いいんですがね ---- 。	302	
	○ もしなんなら，今すぐこゝで申しあげても いいのですが ---- 。	322	
	○ なんと云つてもうちが一番気楽でいゝや。	349	○「ーで」は連用形。「ーであって」相当とするか，連用語相当とするか，問題。
でも・□	○ なんにも云はないでも，なんにも訊かないでも，お互の心の底はよゥく解つてゐらァね。	199	
	(○ なんぼ大将でも，まさかそこまでは予(ママ)過るまいと思つてたんだが。)	(224)	○「(名詞)+でも」は副助詞につき，1.1に回す。
	(○ また，いつでもお序に頂きますから ---- 。)	(232)	
と・□	○ あたしはまた，お云いとこだとお寒からうと思つて ---- 。	46	
	○ ねていらつしやると，女将さんがもうちよつとの間でも側をお離しンなりませんからね ---- 。	51	
	○ 資本家が来ると，すぐかう扱いが違ふんだから可厭ンなつちやうなァ。	70	
	○ いかゞでせう，承知してやつてくださると，どんなに喜ぶか知れないんですがね。	76	
	○ あんまりいつまでもおめかししてると，却つて出端がなくなつちまいますからつて，あゝしがさう云つてたつてさう云つてください。	89	
	○ そのくせ燥ぎだすと，これで中々面白いことをいふんですけれど	94	
	○ それァ信さんも，その道にかけると，中々ぬからないことはぬからないからね。	110	
	○ 丈もう二番目になると，白襟は大抵帰つちまつてるがね。	134	

	○ もうちよっと深いと泳げるんぢやが，実に残念なもんぢやね。	140	
	○ ですから，あなたのお遊びが，少々悪しすぎようとどうだらうと，そんなことはあたしの知ったことぢゃありません。	253	○「～(ウ)と(も)　～(ウ)と(も)」問題だが，しばらくここにおく。
なら・□	○ それぢ先生，こっちからかっかと逆上あがってるやうな時なら，それぢそんなこともないとは限りませんけど，何しろ相手があれぢァ----。	29	○「(名詞)＋なら」の扱いは問題だが，P22参照。
	○ いよゝさうだと思ふなら，それぢ附合はないもよからうが----。	72	
	○ 行くなら行くで，さっさと行かうぢやァないか。	83	○「～なら～で」慣用の類型。
	○ ぢあァまァそれならそれで----。	89	扱いは問題だが，しばらくここにおく。
	○ それくらゐなら，俺たちに使はせた方が，よっぽどましだからなァ。	125	
	○ 自動車，やっぱり待ってて貰ふことにしましたよ。一時間かそこらなら構はないって云ふから----。	204	
	○ 喧嘩なら喧嘩で負けるもんか。	262	
	○ あたしなら，気が勝ってるなんて言葉であのお方を批評しようとも思ひませんし，オーそんな洒落た言草は知りやァしません。	277	
	○ お澄だって，どうでもかうでも貴方の方へ行かうと云ふ気なら，さうきっぱりあたしに断れば済むことです。	333	
	○ 二三十円くらゐのもんなら，あれだけ払ひ残しになってるってこともあるだらうが，七百何十円なんて----。	351	
なり・□	○ 察するところ，これァなんだね，滝さんは，来るなり奥へ引き取られの，乳さんひとりで，	72	

	ほねんと今まで持ちされたところから，少々ばかりお冠と----。	
んで・□	○まア大体さう云ふわけだったんで，それで失礼を承知の上で，貴方に伺ふんですが----。	278
のに・□	○それだのに女将さんが，芸者の出方に頼まれてきなんて，どうも少し話が合はないなァ思ってたんですがね----。	102
	○寒いのに，汚いものの始末までさせたりして，ほんとにお気の毒さんでした。	201
ば・□	○もっと早くお暇すればいいのに--。	23
	○ヂャまアよござんす。行ってごらんになれば分るこってすから。	31
	○風くにあたしが，何もかも申しあげちまへばよかったのに----。	196
	○紀尾井町さんってえば，こゝんところ暫くお目にかからないが----。	219
	○これから士官学校の裏を山伏町の方へぬけてけば，なに，歩いたって知れたもんだ。	231
	○さう云へば，その節はまた奥様から，結構なお祝ひを態々お送りくださいまして----。	304
	○将来のことは，それが現在に来るまでは何も云へない，と云って了へばそれまでだが----。	333
	○もうこれからは，きっと一人でやって行きます。この世の方衣には，つれなんてものは決して出来ないものと思へばすむことなんですから	324
	○尤もそれァ，明日の朝自動車屋に訊き合せてみれば，すぐ分ることですけど----。	337

「ば」の変化形

[ーャァ]・□	○兎に角，ちっと云やァかあなんだからね，この人は。	49

○ 御年十九と云やア既に，------十九ですからね。 103

○ 既に十九と云やア -----苦だからね。 104

○ さう云やアまアさうですけれど，然し----。 132

○ 本来いやア，何しろ学問が問題だから，れ三ぐらゐぢァ----。 219

○ 貴方がさう云やア，あの人きっとやる気なんですから。 276

○ ほんと云やアから云ふ長っ細い部屋は嫌ひなんだけれど----。 302

[ーりやア]・□ ○ ぢァ持って帰りやアいっのに----。 10

○ それァもう----雪さへ降りやア----大ッころ同然で----。 68

○ ひッ腰のねえ，もうちっと辛抱すりやアいっに。 92

○ 心から可厭となりやア，日に百度呼び出しがかゝって来たって，めったに出かけて行くやうな瀧ぢやァないよ。 115

[ーれア]・□ ○ 俺もなけれア歩いたって知れたもんだ。 19

○ ですからさ，もう何しにお見舞に来なけれアならなかったんですけど----。 56

○ 困ることがなけれアそれでいっんだけど----。 75

○ さア，さうきまれア俺アもう今夜は，夜っぴいてこゝで飲み明すからさう思ってくれ。 216

○ 少し餘計に飲みさへすれア，きっとあとで吐く客子だからなア。 220

○ 考へてみれア，随分高いもんについてるがね。 285

≒の・□ ○ 毎日のやうにみんなあなた・白襟の，---就が可厭ンなっちまふんですよ，あの会社の印が，あんまり露骨ぢァありませんか，そっくり汽車の輪なんですものね，帯から何からすっかりお揃で。 100

○ 「ーで」は連用形。

	□	○黒い髪の毛に赤い珠でもよし、赤い手絡でもいいが、兎に角さう云ふものを用ひ始めた女は、大した人ですね――。	88
		○あの時お話した通り、早速仕事にかゝつたもんですから――。	(273)
		○そのくせ、あの女が、これまでにして来たことを、何一つ知らないわけぢゃなし、仕様のない奴だつてことは、童に承知してるんですからね。	278
2.	上に □・□	○兜をぬいだ上に、今夜から改めてあつしゃ素人料のお弟子入りをしようつもりでゐるんだから、どんなに馬鹿にされようつて仕方がありません。	214
	が：□・□	○野暮屋敷に対するお勤めか、それともちゃう少し違つたものか、そのへんのことはあたしも知らないがね、定連の付合を忘れるほどなら、初手から一人で来れゃよかつたんだ。	73
		○ちゃんと絵図はひいてあるが、場合によつちゃ、今日はこれんばかりも持ち出さずに、とんでもない見当違ひの話しばかりして帰つて来ることになるかもしれないよ。	156
		○半次は生憎みんなにしちゃいましたが、虎恵のいのがありますから、このあとへ、赤だしにして差しあげようと思ってるんですけど――。	210
		○まだ傲慢不遜な言葉ですが、然しさうなって来れば、どうもなんとも仕様のないことですから、いつ何時でも御懇意にお見限りください、とでも云ひたいやうな気持でゐます。	259
		○一体鈴江つてやは、勿論素人にやあ違ひないが、どっちかと云へば姐帰型の女だからね――。	280
	から □・□	○勿論間に合せだから結局はくだらないんだが、それでも今の世の中には、一応も二応も通用して行くんだから大したもんだよ。	43

○「通り」の扱い問題。形式名詞と見られようが、しばらくここにおく。

○「上に」の扱い問題。しばらくここにおく。

○「ず(に)」はこの形で連用法にのみ使われるから、古代語の「で」(ズテ)と同様の接続助詞扱いができるであろう。

○ きっと明日か明後日にはお目にかゝれさうな気がしてゐますから、さうしたら　128
お話してなんとかしといて頂きませう。

○ たゞなんだね、嫌味のないことだけは心造かだね、どんな場合でも、決して　133
拵へにところはないからね、その点は、吉にには大へん気持がいいが、女
なんぞにとつちゃ、とても魅力になりさうもないことだからね

○ どうせもうこんな泥ものですから、お嬢さに貰ってくれる方もありゃしませんし、　188
あたしにしたってもう懲りですわ。

○ 俥は僕が乗って帰るから、君は丹後町へ送ってって、それから、うちへ　232
帰りゃ、丁度道順じゃないか。

けれど・□・□　○ 失礼してこともないだらうけれど、ちゃ、もうそろそろお見えになる頃だから、　59
兎も角あがしからさう申しあげてみませう。大抵厭しは仰有るまいと思ふんだが---。

○ それがね、その時に話するのを忘れて了ったんだけれど、まだ今日ぐらゐお在宅　350
だらうと思って伺ったら、なんて、大へん困ったらしい御容子でしたから、あたしで
解りますことならって、さう申したんですよ----。

し・□　□　○ ――さう云ふのが一番今時の女の心を惹くらしいし、また本統にさう云ふ風なら、　43
出来てる人間に違ひないんだが----。

○ 何しろ、胸はむかつくし、目の前にはなんだか黄色っぽいものがもやもやしてゐるし、　103
大苦しみの最中で、はつきりとは憶えてませんが。

○ あなたに悪いことをされたなんて気持は、これっぽかりも残ってやゝしないし、また　197

言へてみれば、実際ちっとも思いことなんざアしてやしないんだからね。

○ わりに広いし、親父さんは、井中ホテルに行ってて、夜もおそくでなくっちゃ　273
帰って来ないし――。

ずに・□・□　○ そんなこと云はずに、御免かうむって、御一諸になにしたらいぢアありませんか、　89
ねえ、女将さん、さうなさいな。

○ ――そんなちょっとした言葉まで、いまだに忘れずにゐるくらゐですから、その時の　278
本気さったらなかったんです。

たって・□・□　○ 隠したって駄目よ、あたしが東京にゐなくなったって、あっちこっちに沢山手下が配って　141
あるんだから。

○ 弁護士ったって、名ばかりで、その実まア吾吾と大した違ひはないんだから。　155　○ この「ったって」は「と言ったって」の意。

○ ところで、君が考へてみたって、鈴江を、その二つのうちどっちか八片がけるとすれば、　281　「で」は連用形。
どうしたって娼婦型の方だらうぢアないか。

○ ――その通りったって、大ぶんまア話は違ってるけれど、君との関係をあたまに置き　284　○ この「ったって」は同上。
ながら話したには違ひないんだ。

たら・□・□　○ 神様の目でみたら、どっちがどうなのか、本当のことは解りやしないが、親爺が生　196
涯悪く云ってた人間に、あたしとしたって好意のもてよう筈はないぢアありませんか。

○ 一度誰か然るべき医者に診せといたらって云ふんだけど、中々あれで強情だ　220　○ この「たら」は「たらどうか」の約で、
からね。　終助詞的になっている。

○ かう申したら，みづから揃らざるの愚を嗤はれるかも知れませんし，若気の至りと危まれもしまさうけれど，早い話が，あたしは，世間と云ふものを，貴方の仰有るやうに，「長いもの」だとは感じてゐません。 258

○ おそくなったら仕方がないから，パパの床にはいって，先に一人で寝ちまふのさ。 270

○ もし窪井さんがまだ晩御飯前だったら，昨夜のお返しがてら，一口つきあって頂かうかと思ってさ。 342

○ さう申しあげましたら，折角ですけれど，少し労れて居りますから，今夜はお断り申しますってことでしたよ。 345

(ッ)で・□ □ ○ その上にまたウキスキイを四五杯もめしあがって，あぶなくって見てゐられないほど，ひよろ〳〵しながらお帰ンなすったんです。 226

○ ところがね，ほかのことと違って，事ひとたび女に関すると，忽ち友情もへったくれもなくなっちまふんだから----。 29

○ これァなんですよ，たった今あッしがちょっと奥へ顔出しをして，今夜これ〳〵でお二人がお見えになるって話したもんですから，それぢァってことになったんで，決して前々から段取ってあった訳ぢァないんですよ----。 75

○ お前さんは，お風呂かなんかへ行っちまってて知るまいが，急に女将さんの御招待ってことになって，これからお居間へ推参に及ぼうと云ふところなんだぜ。 79

○ あれは，三十九年の三月，――東北鉄道の買切なんぞがあって，初日が二十日すぎになってるから，一役には六月興行のやうに思はれてるけれど，実際は三月です。 101

○ が，これァ今になって，ちっと落ちついて考へてからの理窟で，なんてったって，あなたの， 196 ○「で」は連用形。

	----なにが、窪井、と聞いた時の気持は----。		
	○現に先達もさ、くだらない不良少年にひッかゝつて、ちよゐッと千両してやられてるんだもの、ひとごとながら腹が立たゞね。	221	
	○これから牛込へ出て、それから銀座を廻つて、最後にあつしが帰ると----。	231	
	○それアあなた、そこが芝居と違つて、活動が楽の出来るとこで、いくらだつてトリックが利きまさアね。	274	
	○親父との御対面はさて置いて、今夜のところは、唯今ちよつと申しあげたやうなわけで、こちらが無理にも御面会を願つたやうなわけですから。	329	
で・□・□	○そんなこと云はないで、泊つていらつしやいよ。帰ったらすぐに電話でうちへさう云つとけば いゝんぢアないの。	19	
	○ちよいと見たところぢア、健康さうで、相応お洒落で、恋患でもしようつて風に見えないがね。	31	○「(-)で」は連用形。
	○先潜りをした申分で、自分でも大へん不愉快ですが、どうかゆすりがましいことでも云い出すんではなからうか、と云ふやうな御心配なら、決しておもちくださいませんやうに。	324	○「で」は連用形。 ○この「なら」は係助詞。
でも・□・□	○なんと云つても、姉は姉ですし、決して芯から悪い人ぢやアないんですから---。	312	
と・□・□	○柔道で云ふと、一級とか二級とか、つまり初段になりかけのところで、やたらにお土砂が使つてみたくつてならない時期なんだからね、まアせいゞ云はしとくさ。	208	○「で」は連用形。
	○正直な話、あたしたちがなんか悪口みたいなことを、ちよつとでも云ひかけると、すぐ慌てて そばから揉み消してゐふやうになさるくらゐですもの----。	227	
	○さういたしますとね、どうと云ふわけでもございませんけど、たゞなんとなく小田原の方へおくだりになったことばかり思ってましたのに、塔の沢の佐々木へお送り申したって云ふのですよ----。	340	

ながら・□・□	○ お礼をあひながうだつて，へんに思つてないとは限らないからね。	20	○「ながら」の扱い問題だが，しばらくここにおく。
	○ だから，なんのかんのさんざいやうなことを云つときながら，とても馬太目だとたかをくつたうちのママさんなんぞに買被られたりして，だんゝ話が本式になりかゝつて来ると，急に逃げ腰になつちまやがつたんです。	278	
なら・□・□	○ 心に不平があるならあるで，そんなへんな顔をしてゐないで，はつきり口で云へといふんだ。	64	○「～なら～で」慣用の類型。
	○ いつものあたしなら，い幸に，こつちも早速ほかの女にモーションをつけちまひますがね，あん時ばかりは，いま思つてみても不思議なほど一生懸命だつたんですよ。	278	
	○ その男に，是非結婚しろとか，それが可厭ならどうするとかつて，頻りに強迫されて，それに就いて，謂はゞまア手切金だが----。	284	
ば・□・□	○ いゝルムさへ出来れば，もう今の時世なら，売込みは雑作ないんだから，右から左に金になる。	155	
	○ そんなそれで，俺ア活動なんぞ大嫌ひだつて，頭から断つちまへばいいものを，なんにも解らないくせに，きつと上顎と下顎とぶつかり放題の講釈を，神妙に小一時間も聞かされたんだらうよ。	221	
[「ば」の変化形]			
[ヤア]・□・□	○ 正直いやア，水入らずで，この方が面白いんだがなア----。	81	
	○ それァもう，ずさから云やァぐらねつて言草はないわけだけれど，何しろお前ンとこは安いからね---。	219	
	○ 過ぎたことを云やァお互に屑みたいなもんだけれど，これで二人が夫婦になれりやア，	278	

	まァどっちもお互に、救ひ救はれる基礎だらうと思ってたんです。		
[れァ]・□・□	○まだひよっとすれァ赤電車に間に合ふかも知れないし、なけれァ俥を探すよ。	19	
	○それァ、うちにねさへすれァ、大将のことだから、大抵出かけて来るだらうけれど----。	28	
	○二人ッきりでなけれァ、一晩ぢう話し明したって いいけど----。	239	
▨・□・□	○兎に角あたしは初対面だ、生れて初めて会ふ人に、なんの理由もなく、徒隔世定にならうと云ふんだから、いかに因にしいとは云っても、こいつちよっとてれだよ。	80	○「なんの理由もなく」の扱い問題だが、しばらくここにおく。
	(○お邸からお暇を頂戴しましてからぢきに、親たちにやかましく云はれまして、一旦わきへ嫁きましたんでございますけれど----。)	(304)	○この「やかましく」は副詞的用法。「て・□」の項に回す。
3. が・□・□・□	○なにね、この女将さんが先達ぢうから麻疹でねてたんですがね、もう殆んど全快したんで、この勇祝ひなり年忘れと云ふやうな意味で、あんまり唐突ですけれど、今夜みなさんに一口差上げたいって云ふんです。	75	○「で」は連用形。
	○市村の兄さんが初役で助六をやった時なんて、話にこそ聞いてるが、まだあッしなんざァ袖の長い着物を着せられて、たまに舞台に出れァ、「母様いなう」なんて、このへんから声を出してた時分ですもの。	102	
	○一体なんの話だか、---あたしも、---下等だが、口性なのをいっことにして、二日か三日行って、そらまごゝしてゐたやうに思ふんだが---。	102	
	○果敢な話だが、酒の力をかりても、うんと云ふだけ云って、それッきり死んでも二度とは逢はない決心でやって来たんです。	194	

	○ その場句に、三千円と吹っかけられたんださうだが、貸すのは可厭だから、千円だけなら進呈しようって ----。	222	
	○ あたしもこれから行くのが生れて初めてのうちなんだが、紹介してくれた人の話ぢゃ、どっちかと云へばぢみな、――場所は銀座のすぐ裏通りだけれど、ごく静かなうちださうですから ----。	296	
から・□・□・□	○ これは、あたしだからって云ふ自惚で云ふんぢゃありませんよ、だけど、女の方から憶えてゐると云はれて、殿方ってものは、ほんとは忘れてゐても、大抵なんとか調子を合はせて、いゝやうに話をなさるもんですよ。	104	○ 2文にわけるほうがいい。しばらくここにおく。
	(○ コップ酒の荒事になってから、女将が、信さんに惚れかゝっちゃって、ロうつしに飲ませろ、あなたにはさうして貰ってもいゝ義理があるんだ、なんて云ってましたからね。)	(114)	○「なってから」は格助詞だから、「て・ロ・ロ」の項に回す。
	○ お前たちは、どうせ信さん贔屓だから、そんな風に云ふんだらうが、なんでえ、あっちにもこっちにもゝばかり拵へて、色魔と云はれたって、ぐうの音も出せねえ筈の身もちぢゃねえか。	228	
	○ いづれ白と黒と云ふやうな具合に、はっきり二つに分けられるもんぢゃないんだから、大体から云って母型にはいる質の人だって、多少娼婦型的なところもあるだらうし、反対に一見娼婦型の女にも、母型的な傾向が全然ないとは云へまい。	282	
くせに・□・□・□	○ あたしども、なんにも知りもしないくせに、ほんとに余計な心配なんですけど、なんだか気になりますもんですから、今朝ほど自動車屋に電話をかけて訊きましたんですの。	340	

けれど・□・□・□	○そんな、新聞に出されるなんてことはないけれど、あゝ云ふ人たちと来たら、とっつかまったら中々はなれないんだからね。)	(51)	○「と来たら」は係助詞相当だから、この例は「けれど・□・□」の項に回す。
	○その男が、以前にはそんなでもなかったんだけれど、近頃すっかり不良少年になっちまって、いろ〳〵まアその不良さ加減を、実例を挙げて話して聞かせたがね。	284	
し・□・□・□	○わっしも夕方のことで急いでましたし、奥さんにもお目にかからずに帰って来ちまったもんですから、詳しいことは伺ひませんでしたけれど、なに、大したことぢアなかろうと思ひますよ。	220	○「ず(に)」前出(38ページ)
	○別にお訊きにもなりませんし、いつでもお一人の時は、きまってさうですけれど、今朝からずっと坐ったきりで」なんですか言問もののやうなことをなすっておいでですから----。	342	○「で」は連用形。
たって・□・□・□	○なんてったってうちの商売が商売だし、あんまり当にならないが、先刻の君の話のやうだとすると、鬼も角大ぶん古風だね、今時そんな。	30	
	○いくら酔ってたって、その晩初めて逢って、而も自分の、---つまり清吉の見てる前で---それア矢っ張り、余っぽど惚れてなきア出来ない芸当ですよ。	113	
	○独逸の大学者とかが考へたことに、僕なんぞがとやかく云ったって仕方がないけど、僕に云はせれア、世界中の女は一人残らず、その、なんでしたっけ、娼婦型---ですか、それだと思ひますね。	281	
	○今ったって、この前金吉と二人で来てくれた時に、すぐ、あゝこの人だな、とは思ったんだが、今夜君の話を聞いてみると、全くその通りで。	284	○「で」は連用形。
ちア・□・□・□	○一体、兼ねたりしちアすきないんだけど、もうお一人は、----あ、いつか見えた三好	58	

	先生ね、あの方にお相客を願ってさ、ちょいと晩御飯だけ附合って頂くことになってるんだがねえ----。		
(ハ)で、□・□・□	○すッとお客であがって置いて、ちょいと二三十分階下に顔出しをして、今日は三好先生とご一緒だから、って云ふやうなことで、すぐ逃げ出して来よう。	28	
	○大抵利口な女でも、表に見えたばけをその人と考へることが出来ないで、なんだかまだ裏があるんだらう、どこまで行ったら底が見えるのかしらん、---で「楽屋」につられて、だん〳〵興味が深まり、厚意がいつの間にか恋愛になる。	43	
	○それアもう、例のが現はれて、---信さん、ちつと悪酒で、ト(口上)やなんかあったんですが、介抱いたらざるなく、でね。	116	○「で」は連用形。
	○吾々と違って、自分で稼いだ金で遊ぶんぢアないんだから、はたから見たってどことなくかうゆったりと、大まかで、たゞ〳〵お羨ましい限りだよ。	220	○「-て」は連用形。
	○瀧を送ってって、もしどこかに寄るってったら、横アねえから、知らん顔をして、一緒に行ってみろ!	233	
	○さぞ鈴江が忙しがって、---尤もいつだって退屈なんぞしてゐる女ぢアないけれど、これで生き甲斐が出来た、って云ふやうな気持で、あっちこっち世話を焼いて廻ってることだらうね。	276	○「で」は連用形。
	○でもね、僕、初めっからあの人の柄を見て節を考へたんですから、今になって出ないなんて云はれちア、ほんとに困るんですよ。	276	
	○東京で生れて東京で育った人間には、東京の宿屋ってものは、まるっきり用のないもんだから どう云ふうちに案内しちらいのか解らないんだけれど、兎に角まア一軒電話で部屋をとっと	296	

いて貰ひました。

(○普段忙しい人間が、にまさかかうして気晴しに出て来とるんだから、どう云ふお話か知らんが---なんなら、東京の邸の方へ来て貰はうよ。) (321) ○「気晴しに」は格助詞だから、「て・□・□」の項に回す。

○いま初めてお目にかゝったばかりで、こんなことを申したって、誰だって信用してくれる人はないかも知れませんが、決してあたしは、そんな胡乱な人間ではございませんから----。 324 ○「で」は連用形。

○先刻からの御容子で、失礼ながらあたしには、貴方と云ふ方の御気性もよく嚥み込めてゐると思ひますから、大して間違った訪ひはいたさないつもりですが---。 331

○猫の目のやうに、くるゝ云ふことが変って、——まるで子供みたいで、いかにもお恥しいわけですが、考へてみると、この問題に貴方を引ッ張り込んだのは間違ひでした。 332 ○「-で」は連用形。

○請求書を忘れて来て、はっきりした金額が分らないって仰有いますから、判だけ捺して、金額はあとから書き込んで頂くやうにしといたんですけど---。 351

○御同様、商売柄で、人様の秘密や世間の裏の裏はしょっちゅう見聞してゐるのですから、世間からは一代の師表と仰がれ、御自分も大手を振って威張ってゐなさるやうな方にも、裏に廻ってみれば、随分いかゞはしい行ひがあるものだ、なんてことは、実際いやになるほど知ってゐますよ。 252 ○「で」は連用形。

(○まア永い間の経験で、この老人が云ふんだからと思って、ひとつ心にとめて聴いて置いてくださいませんか。) (253) ○「経験で」は「言う」に対する格助詞。「から・□・□」の項にまわす。

ても・□・□・□ ○それアそうにゐる人のやうに、せのけつばかり追っかけ廻しても、出来ない人にゃ出来ねえし、出来るとこにゃまた、大人しくおててをちゃんと膝の上に置いてゐるって、 228

	先方からお膳を据ゑに来るんだもの。		
と・□・□・□	○ 旧い話になると、いつでも忘れたやうな顔をして、決してきちんとしたことを云つた試しがないんですけど、今夜はもう本当の年令がばれる覚悟で、あたしの方から持ち出したんです。	100	○「て」は連用形。
	○ あらまし聞いとかないと、話がとんちんかんになつても困るからね。余田かいことは、その場〳〵でうまくピントを合はせちまふけど-----。	150	○「～(ウ)と～(ウ)と」類型。
	○ お客さんだらうとなんだらうと、もうさうなつたひにやあまるっきり見境がつかないんですから---。	228	
なら・□・□・□	○ いつもならさうですけどさ、藤代さんが見えたとなりやあ、お澄さんが出てお酌だつてしてくれない限りぢゃありませんからね。	31	
	(○ いゝ男のことを云ふなら、別論龍さんの方が十枚も二十枚も上だし、云ふこと為すことだつて、別段気が利いてるつてほどぢやなし、それに女房持でさ---。)	(132)	○「なら・□・□・□・□」の項へ回す。
	○ そんなことまでは知らねえなら知らねえで、黙つて引っ込んでりやあいいんだ！	228	○「～なら～で」類型。
	(○ たゞ自分一人の問題なら、どこまでも自分流儀にやつて行きたいと思つてもゐますし、これまでの僅かばかりの経験では、誰からもさう大した学財をうけずに来たつもりです。)	(258)	○「なら・□・□」の項へ回す。
に・□・□・□	(○ 「話分れなしに」またこんな廊下のやうなところで、突然言葉をおかけ申すのは、重々失礼ぢゃございますけれど、実は貴方に、折入つてお話し申しあげたいことがあるのですが----。)	321	○「▨・□・□」の項に回す。

ば・□・□・□　○「高蹈」の同人と云へば，世間ぢゃ信さんを食いものにしてゐるやうに思ってるやつが　121
可なり多いんだから，吾々から云へば，その名誉毀損料としても，信さんから，当然，
それくらゐなことはして貰ってもいい筈だよ。

○ 世間に云はせれば，ちと偏屈すぎた堅人なのでせうが，それでも，そのおかげには，252
この年令になるまで，――御承く知のさして学問とてもないあたしですが，どうやら
かうやら無事に世渡りをして来られましたからね。

○ 交渉があると云へばあるし，ないと云へばないやうなもんだが，一体そんな話を，323
態々わしの前に持ち出して来た目的ぢやね。

○ どうでもかうでも一緒になろうと思へば，失礼ながら貴方に御相談申すまでも 332
なく，同じ昔にその意志を貫いてゐなければならない筈です。

〔「ば」の変化形〕

〔ト化〕・□・□・□　（○ それどころか，考へてみれば却って仕合せなくらゐなもんで，若しこれがあべこべに，(196) ○「れば・□・□」の項へ回す。
あたしの大好きな人だったりしてみたがいい，それこそ穴へはいっても
おっつかない気持だらう。）

〈見出し削除〉（○ ----僕，鈴江さんに厳しく云はれてたんですけど，字が書けないもんだから，つい (272) ○「けど・□・□」の項へ回す。
あれっきりお礼の手紙も出しませんでしたが，先達は有難うございました。）

（○ それにはんですか，今夜は珍らしくちと立て込んでるやうですから，こっちは (89) ○「から・□・□」の項へ回す。
不都合れですけれどあの娘にお給仕をして貰ひませう，それもまた家庭的で却って
いっかも知れませんから。）

4. が・□ ---- ○から云ふ稼業はして居りますが、この人だけはつい近所に一軒別にうちをもたせて置きますし、お座敷に出すやうなことは、たゞの一遍だってさせやしませんけれど、その故ばかりではなく、あたしとは反対に、この人はまたちっと変屈な方でして、まるでもう素ッ堅気のお嬢さんみたいなもんです。 94

から・□ ---- ○それであの男のことですから、側からワイ〳〵云って唆しなてたりしてね、せい〳〵煽いでみせてましたけれど、矢ッ張りどことなく陰鬱にやなってましたね。 115

けれど・□ ---- ○で、甚だ失礼ですけれど、自分の部屋へ来て頂いて、うちの者と一緒に、——と云ったところで、他には妹さんが一人きりですが、たゞ面白くひと晩騒ぎたいって云ふんです。 75

○歳尾に雑誌の方の用で二三度事務所へ行ったけれど、お留守だったり、いらしても馬鹿にお忙しさうだったから、ゆっくり話はしなかったし、元日御年始に伺った時は、珍らしく御夫婦づれでお出掛になったあとだったんで、まだ今年になってからお目にかゝれないわけさ。 131

し・□ ---- ○始終御馬鹿連にばかりなってゐるし、冗談半分ぢゃあるけれど、いつかもお澄ちゃんに、今度はきっとおつれして来るからって、あんなにさう云ってあるもんだしするから、お見舞を兼ねて。 58

○それはあたしのやうな俗人でも、よく解るつもりだし、おゝ、お美しいことだ、とさへ思ふこともありますがね、一方、裏返って考へてみると、あたしが生来の臆病者のせゐか、どうもなんだか不安な気がしてなりませんのですがね。 259

たって・□----	○ 何をされたって，相手の心持がよく解ってさへすれア，なんとも思ふもんぢアないけれど，そんな奇怪なまねをされりやア，誰だっていい心持はしないからね。	73	
	○ 嫌ひったって，めったに見に行かないってだけのことで，何も，話を聞くのも可厭だってほど嫌ひなわけぢアないよ，何か面白い喜戯の筋でも一つ二つ話して聞かせれア，そいつは面白さうだが，今どつかでやってますか，とかなんとか，すぐのって来さうな人なんだから----。	150	○「ったって」は「と言ったって」の意。「で」は連用形。
たら・□----	○ 大もこんなに早く帰っていらっしゃるのでしたら，三好さんもそんなにお困りぢアなかったんでせうけれど，あなたがひよっとすると一月もお留守になるやうなことを云っていらしったし，それに例の通りお出ましになったらそれっきりで，どこにいらっしゃるのやら葉書を一枚下さるわけぢアないんですから，あたしお気の毒だと思ひまして---。	350	○「で」は連用形。
て・□----	○ つまり賑かなことの好きなんでしてね，自分が出られいば，すぐにもお座敷へ飛んで来るんですが，まだそこまでに快なってないので，たゞ自分の部屋をお座敷と思って，ちっとも御遠慮なく十分に召あがって頂きたいって云ふんですがね。	76	
	○ たった一軒だけ呼いてみて，すぐ起きたらよろし，うよっと起きて来さうもなかったら，すぐ帰ると---。	240	
	○ そいつがまた，とても滑稽な奴でしてね，あんまり云ふことを聴かないもんだから，仕舞に木綿糸を持って来て，一生懸命鶯鳥の首っ玉を結はいて，その先を自分のバンドのうしろンとこにしばりつけたまではよかったんですけど，どうだ，今度こそは！ってな顔をして，やっとばかり馬せつ出さうとすると，二足いかないうちに，すぐブランとなれちまって，ね。	273	
	○ あの時分，って云ふのは一昨年の春ごろ，あたしは鈴江と結婚しようと思って，いろ〳〵	277	

	真面目に考へてもみましたし，永い間とても寄りつけない義理になつてゐたおくさんのうちへも行つて，この結婚さへ許してくれるなら，きつと真人間になつてみせるからつて，堅く約束して，うちへ連れて行つてママさんにも会はせたんです。		
	○一体あたしは，心持の繋がりからはいつて，だん〳〵に深く惚れ合つて行くやうな関係なら，相手の都合次第で，金なんぞやつてもよし，やらなくつてもいいと云ふ気持でゐられるんだけれど，惚れてもしないのに，ついだらしなく出来て了つた関係で，その後も大して好きにもならないと云ふやうな関係だと，相手の素人玄人に拘らず，どうにかして金に被せて了ひたくなるのがきまりなんだよ。	280	○「で」は連用形。
	○たゞあたしは，真心をもつて，貴方の真心に徒て相談わがひたいと思つて，それでこんな所で，突然お言葉をかけたりしたのですから，目的はどこにあるかと仰有られたので，間の抜けた心持をはぶいて了つて，いきなり最後のお願ひに飛んだものですから，それであたしの言葉が，「要求」とゐふやうな，ぶしつけな感じのものに響いたのでせう。	324	
で・□----	○女将さんが一つ二つとで，小つまとか云つて盆に摘名を記はれてた時分だつて云ふし，折も五月の下旬，唯でさへ逆上あがるやうな時候を，芝居小屋にねて白襟敷付のうよ〳〵してゐる廊下で脳貧血をおこして青白くなる。	113	○「で」は連用形。
ても・□----	○もしも五日のうちに---勿論態々でなくつてもいんだが，ひよつとして信さんに遇ひでもしたら，一通話しといてくれないか。正月早々からあんまりだらしのない話だけれど，実際こつんとこ，ちよつと手詰つてるんだから---。	128	

と・□----	○少しよくなると、親爺の使ひすぐ送り帰されちまって、碌にお礼を云ふ暇もなかったんだが、――うちへ帰って一時間もしないうちに、すぐケロ〳〵と癒って了って、それがなんだか気にはかかってねたんですが、きまりが悪くって、翌日からもうとても歌舞伎座へ出かける勇気なんかなくなっちまったんです----。	103	
とも・□----	○自分の霊魂に賭をされてるとも知らないで、あの分ならまだいくらでもあとかせぐ、かなんかで、いい心持に嬉しがって出かけて来たんだらうが、そんな紙屑みたいなものをひねくり廻して、小汚ねえまねをすれて、---こっちは千円どぶに捨てたと思やァすむんだけれど、そっちァ生人間らしい世の中にやァ浮かばれねえや。	287	○「で」は連用形。
なら・□----	○これが妹さんの方ならまだってこともあるが、こっちでさう思ふ人は、たゞの一遍でいいから詫尾井町さんに逢はせてくれっってんで、まるで草双紙にでもありさうな惚れやうをしてゐるんだから----。	29	
	○君ひとりならそれでよし」つれがあるくらゐならいっそ詰場にして了って、面白可笑しく一晩あそばう----。	76	
ば・□----	○せたちの気持にすれば、役者と楽屋とは、切っても切れない糸で繋がれてゐるんだから、例へば或る一人の役者が、性格的にどんなにあけすけな、平明な、素朴な男だらうと、女の方では自分勝手に、その男の性分なり生活なりに「楽屋」を感じて、異行や影陽をつけて、――一口に云へば刃態をつけて、各自の好み好みで、近づき難くも、面白可笑しくも、または夢の世界の人のやうにも、種々雑多な空想で飾り立てて了ふんだ。	42	

○ それくらいに思って置けば、あとでよければ大結構だし、大抵わるくつけって　77
驚かないですむからね。

○ つまり、当人が話してくれなければ、あたしとてそれを知る筈もなかったのですけれど、　331
この正月の末に、――好きになってから丁度二十日ばかり経ってからですが、偶然の
機会で、はじから貴方のことを聞いたので、今のうちなら別れられないことはないと
思いまして、その晩早速出かけて行ったのですが――。

「ば」の変化形

[-れア]・□――　○ さうとすれア、――どっちみちつれて来なきアならないとすれア、一人も二人も　50
おんなじこつたから、途中で電話をかけて――。

後　記

○ このプリントは，小説会話文のうち，接続助詞を含む文の用例集である。

○ 排列は，接続助詞（相当の形式も）の五十音順。

○ 当面の資料のテキストは，里見弴『多情仏心』（前篇）（1923年刊）の岩波文庫本（1940年初版の1964年版）。

○ 目的は，これを通して，文における句関係，複文・複々文（仮称）の構成を考究することにあったが，現状は『現代語の助詞・助動詞』（国研報告3，1951年刊）の該当部分にならぶ接続助詞の用法の基礎資料の一つとみるべき段階にある。

○ 接続助詞のみとめかたには，問題のあるものもあるが，ここでは，やや広げた立場をとっている。

○ 記載文例は計約730，"接続助詞1つだけを含む文"と"2つ以上をふくむ文"とにわけたが，今回は前者に重点を置いて記述した。後者については，備考その他の記述が簡略になっている。

○ 文例の長いものは，適宜，その一部を省略した。

○ かなづかい・送りがなは，原文のままとし，漢字は，現在ふつうに使う形に改めた。

（衛藤蓉子）

○ 接続助詞のみとめかた，接続助詞（相当の形式も）と句関係とのかかわりあいをはじめ，この用例集が，句関係の考究を目ざす資料とすれば，より基本的に考察記述されなければならない諸問題があるが，いま，これについて論述するゆとりはない。

また，接続助詞の用例集としても，なお，別の整理記述が考えられてもよい。読みにくいことその他，技術的欠点も少くないが，2年間の作業をとりあえず記述しておく必要から，万事中間段階のまま，とりいそぎ，このような形にまとめたものである。

○ 整理記述の大部分は，補助研究員 衛藤蓉子の労により，宮地が随時補訂し，統括した。

（宮地　裕）

1967（昭和42）年 3月

1967. 4. 27